

2017

近畿双松会報

— 2017(平成29)年度 —

島根県立松江中学校

島根県立松江高等学校

島根県立松江北高等学校





永久加工された初代の“松”の一部（松江北高校正面玄関）（関連記事はP5・19・48に掲載）



2017(平成29)年度 近畿双松会報

目次

2017(平成29)年度 近畿双松会「総会 講演会 懇親会」次第	3
2017(平成29)年度 近畿双松会「新年役員会」「総会・講演会・懇親会」報告	4
総会議事(1) 近畿双松会 活動事業報告	8
総会議事(2) 近畿双松会 会計・監査報告	9
総会議事(3) 2017(平成29)年度 近畿双松会役員	10
2017(平成29)年度 総会・講演会・懇親会 出席者名簿	11
ご挨拶	15
開会ご挨拶： 近畿双松会会長 松本 耕 司 (16)	
来賓ご挨拶： 双松会会長 金津 任 紀 (16)	
松江北高校校長 小山 理 久 (28)	
2017(平成29)年度 松江北高十大ニュース	18
総会・講演会・懇親会 写真	20
講演「科学技術の担い手の育成」～日本の将来のキーポイント	26
講師：泉 紳一郎氏 (24・理3期) (大和大学(吹田)理工学部設置準備室長)	
2017(平成29)年度 「運営費支援、寄付・広告」 ご協力者ご芳名	28
追悼 物故会員	30
お知らせとご紹介	31
■高橋 一清様 (一社法人・松江観光協会観光文化プロデューサー) からの便り	
■会員の著書紹介「大阪の堀川と橋ものがたり」板垣 衛武さん(高5) 著	
2017(平成29)年度 諸行事報告(骨子)	32
■第10回 落語鑑賞会 ■第2回 北高野球部の大阪遠征試合の応援 ■第39回 ゴルフコンペ(春季)	
■第12回 文楽鑑賞会 ■第12回 歴史ウォーキング「井伊家のお膝元・彦根を歩く」 ■第7回 里山	
歩くぞ! ハイキング「登りもあるけど星のブランコを渡ってみよう」 ■第40回 ゴルフコンペ(秋季)	
■2018(平成30)年度 事務局会議(兼)有志新年懇親放談会 ■第1回「宝塚歌劇鑑賞会」(テストトライ)	
■2018(平成30)年度 役員会	
同期会便り	37
■16期(昭和40年卒)近畿同期会 ■(予告)17期(昭和41年卒)関西同窓会 ■18期(昭和42年卒)近畿	
地区同期会 ■22期(昭和46年卒)関西同窓会「関東幹事歓迎会」 ■24(理3)期(昭和48年卒)第2回	
近畿同窓会 ■(番外・同期協力編)24(理3)期「加西市高齢者中央かしの木学園」講演会 ■25(理4)期	
(昭和49年卒)近畿双松会“次代につなぐ”同期会開催支援 ■27(理6)期(昭和51年卒)近畿双松会“次代	
につなぐ”同期会開催支援 ■31(理10)期(昭和55年卒)松江北高@関西同窓会(第2回)	
会員近況報告	41
特別寄稿	
「二本松の歴史」双松会幹事長 金平 憲 (16)	48
自由投稿	
「松江を知りたい」 押田 良樹 (11)	50
「Open Mind 考」 村尾 俊治 (11)	54
「私にとっての近畿双松会」 小泉 勝是(松高14期⇒山口高校)	58
編集後記	60

2017(平成29)年度 近畿双松会「総会 講演会 懇親会」次第

2017年11月26日(日) 午前11時半～午後3時半(受付開始:11時)
於:中央電気倶楽部 5Fホール

◆第一部「平成29年度総会」(11時半～)

司会:三好 資子 副会長(20)

1. 開会の辞:
 2. 物故者黙祷:
 3. ご挨拶: 近畿双松会 松本 耕司 会長(16)
 4. ご来賓ご挨拶: 双松会 金津 任紀 会長(16)
島根県立松江北高等学校 小山 理久 校長(28)
 5. 議長の選任:
 6. 議事: (1) 活動報告(スライド): 渡辺 悟事務局長(20)
※スライド制作: 押田 良樹常任顧問(11)
(2) 会計報告・監査報告: 渡辺事務局長、鶴羽 孝子監事(22)
(3) 役員の異動: 渡辺事務局長
 7. 閉会の辞:
- ※緊急報告「赤山の双松の松の現状について」: 双松会 金平 憲幹事長(16)

◆第二部「講演会」(12時10分～)

講師紹介: 渡辺事務局長

【演題】:「科学技術の担い手の育成」～日本の将来のキーポイント～

【講師】: 泉 紳一郎氏(24・理3)(大和大学(吹田市)理工学部設置準備室長)

・ ・ (講師略歴は別掲)

◆全員集合の記念写真撮影(13時10分～)

<休憩(10分)>

◆第三部「懇親会」(13時25分～)

司会: 渡辺事務局長

1. 開会の辞:
2. ご来賓・ゲスト紹介:
金津 任紀 様(双松会会長) 金平 憲 様(同・幹事長)
小山 理久 様(松江北高校校長) 堀江 玲美 様(62)(同教諭・双松会校内幹事)
伊藤 征治 様(近畿松江会会長) 竹谷 奨 様(近畿松江会幹事長)
学生ゲスト各位(65・67・68)
3. 乾杯:(音頭)双松会 金平 憲 幹事長
4. 会食・懇親:(随時、テーブル写真、スナップ写真を撮影)
5. スピーチ: ◆学生ゲスト6名と堀江教諭 ◆寺井 萌乃 昨年度百人一首かるた読み手部門高校
日本一(68)と堀江教諭による百人一首朗詠 ◆清原 正義島根県立大学学長(16)
◆千葉 潮(公財)加納美術振興財団理事(30・理9)
6. 校歌斉唱: ※赤山健児の歌(指揮演武:堀江 眞三人様(2)) ※山脈浮かびて(全曲)
7. 万歳三唱: 萩野 貫悟様(12)
8. 閉会の辞:

<全終了:15時45分>



■「新年役員会」報告

日時／平成29年2月4日(土)11時～
会場／中央電気倶楽部

会則第8条に従い、21名の役員が参加して恒例の新年役員会を開催、本年度の運営方針について意見交換し、了承しました。

・主な内容：

- ①「収支」方針を堅持し、来年度の60周年を余裕を持って迎える状況を確定する。
- ②総会懇親会、行事等の参加者の充実。(特に次代へつなぐため20期以降の会員への働きかけを強化)
- ③恒例行事に加え、「宝塚歌劇鑑賞」を試験的に開催することを決定。
- ④会員の満足感を呼ぶ会の運営。(母校・郷土に関する魅力ある情報を提供、「HP」と「会報」の充実)
- ⑤「双松」名簿の改訂による「近畿の名簿」のリニューアル。(新たに193名を追加)
- ⑥本年度の総会・懇親会は11月26日(日)に中央電気倶楽部で開催。

・参加役員は次のとおり(敬称略)

【常任顧問】山本雅昭(7)・押田良樹(11)【会長】松本耕司(16)【副会長】梅木隆志(16)・(事務局長)渡辺悟(20)・三好資子(20)【監事】物種慶子(20)・鶴羽孝子(22)【常任幹事】加藤巡一(14)・金坂喜好(15)・岡久夫(17)・小田一美(18)・岩田一志(19)・小敷賀健二(20)・内藤善夫(22)・松本潤(23)【幹事】久保田幸雄(2)・田村稔久(6)・萩野貫悟(12)・池田喜美代(19)・泉紳一郎(24・理3)以上21名

■「総会・講演会・懇親会」報告

日時／平成29年11月26日(日)11時半～15時45分
会場／中央電気倶楽部5Fホール

当日は願いが通じたのか、快晴に恵まれました。乾杯・会食の時間を少しでも早めようと30分前倒しをしてスタートしましたが、松江からのご来賓の皆様には朝一番の“やくも”で松江を発っていただき、無事に間に合っていました。

今年の参加者は去年よりは少なくなりましたが、ご来賓や学生ゲストを含む丁度100名の方々に出席いただき、盛大に平成29年度の総会・講演会・懇親会を行いました。(参加者名簿別掲)

本年は昭和33(1958)年の本会の設立(戦後の再開)以来59回目の総会で、来年はいよいよ還暦60周年を迎える記念の年であることを意識しての運営になりました。

(1)第一部：2017(平成29)年度「総会」

(別掲「式次第」参照)

総会では三好資子副会長(20)の司会で始まり、物故者の方々への黙祷、松本耕司会長(16)の開会挨拶に続き、就任3年目で初めて近畿の総会にご出席いただいた双松会の金津任紀会長(16)、4月に母校の校長に就任されたばかりの小山理久松江北高校校長(28)から、それぞれご来賓の祝辞をいただきました。

小山校長には、生徒会が中学生とその保護者向けに作成した「北高紹介(PR)DVD」も上映いただき、会場からは現在の北高と北高生の実像を見てあたたかい拍手が起きました。(ご挨拶の詳細は別掲)

総会議事は、松本会長が議長となって、活動報告、会計・監査報告、役員の変動の報告がなされ、それぞれ満場一致で承認されました。(各詳細は別掲)

・緊急報告「双松の一本が枯れた件」

ここで、双松会金平憲幹事長(16)から下記のような緊急報告がありました。

「北高の宝“双松”は今まで昭和62・平成13・22・26年と大きな伐採、植え替え工事を行ってきたが、本年5月頃より向かって右側の松が赤く枯れ始め、遂に10月に伐採した。今後は根の掘り起し、土壌のチェック等の過程を経て、できるだけ早く植え替えに取りかかる。何としても守り通さねばならないシンボルであり、“北高の松の緑を守る基金”の募集を始めることになる」という予告のお話でした。

皆様には、その節は力強いご支援をお願いいたします。(⇒関連記事を北高十大ニュース・P19、金平幹事長の特別寄稿・P48に掲載)

(2) 第二部：「講演会」



本年度は、泉紳一郎大和大学(吹田)理工学部設置準備室長(24・理3)に「科学技術の担い手の育成」～日本の将来のキーポイント～と題して講演をいただきました。

松江での幼少時や北高での文武の生活の思い出、ふるさと松江への思いを含め、文部科学省でのご経歴を踏まえての「日本の科学技術(者)が置かれている現状」のお話(警鐘)に、耳を傾けました。

(講演骨子は別掲)

続いて、休憩の前に吉例の「全員大集合写真」に、昨年以上の工夫を加えて取り組みましたが、さて出来栄はいかがだったでしょうか(P20に掲載)? 何年か後には完璧なものが出来上がることでしよう。

(3) 第三部：「懇親会」

懇親会は渡辺悟副会長・事務局長(20)の司会の下、あらためてご来賓・ゲストを拍手でお迎えした後、双松会金平幹事長のご発声で乾杯し、スタートしました。



歓談も佳境に入った頃、本年度の学生ゲスト(65・67・68)6人の皆さんに壇上から自己紹介をいただき、皆で歓迎の大拍手を送りました。双松会校内幹事の堀江玲美先生(62)からは北高から持参いただいた担任の先生方からの激励メッセージが手渡され、6人の顔がほころぶのをほのぼのとした思いで見守りました。



「末は総理大臣をめざす、枯れた双松を先輩方の力で復活させて欲しい、去年の140周年式典で司会をするという素晴らしい経験をした」など・・・、学生ゲストの皆さんの挨拶も真に楽しいものでした。

宴もたけなわになった頃、昨年度「百人一首かるた読み手部門」で高校日本一になった寺井萌乃さん(68)が学生ゲスト(大阪大進学)でご参加だったことから、百人一首部の元部長であった



堀江先生とともに壇上が上がっていただきました。

堀江先生の「予選落ちだった私と、日本一になった寺井さんの声を聞き比べて欲しい」とのユーモラスなリードで始まり、会場からのリクエストに応じて、堀江先生は序歌の「難波津に 咲くやこの花 冬籠り 今を春べと 咲くや木の花(王仁博士)」と、「淡路島 通ふ千鳥の 鳴く声に 幾夜寝覚めぬ 須磨の関守(源兼昌)」を、寺井さんは「序歌」と、「秋の田の かりほの庵の 苫をあらみ わが衣手は 露にぬれつつ(天智天皇)」、「田子の浦に うち出でて見れば 白妙の 富士の高嶺に雪は降りつつ(山部赤人)」、「嵐吹く 三室の山の もみぢ葉は 竜田の川の 錦なりけり(能因法師)」、「天つ風 雲の通ひ路 吹き閉ぢよ 乙女の姿 しばしとどめむ(僧正遍昭)」の五首を、勿論お二人ともマイクなしでご披露いただきました。

その澄んだ伸びやかな日本一の歌声に会場は魅了され、万雷の拍手が送られました。寺井さん、堀江先生、有難うございました。

続く会員のスピーチでは、昨年、兵庫県立大学学長としてこの総会で講演いただき、4月から島根県立大学の学長に就任された清原正義さん(16)が、遠路浜田からご参加いただきましたので、スピーチをお願いしました。

清原学長からは「島根に帰り、島根のために働けて嬉しい」、「島根県立大学を全国一の地方貢献型大学にするという公約をしている」、「日経グローバル社の大学の地域貢献度ランキングでは、今年は大阪大学が1位、島根大学は18位、島根県立大学は234位だったが、ここからスタートして十年後には日本一にしたい」という力強いご挨拶、決意表明をいただき、ご健闘を願う拍手が沸き起こりました。



次いで、久しぶりのご参加となった千葉潮さん(30・理9)が安来の(公財)加納美術振興財団の理事に就任されたことからスピーチをお願いしました。

千葉さんからは「この十年近くこの会にも参加できなかった。この間、つぶれかけた出版社の後始末に追われていたが、ようやくメディアイランドという小さい出版社を立ち上げ、今は大阪と安来を往復することができるようになった。



「安来市加納美術館」は画家、教育者であり、フィリッピンの子供たちへのB・C級戦犯の助命嘆願活動に心血を注いだ加納莞菴の活動の顕彰を起源とし、平和と芸術を追求する運営をしていることを紹介され、足立美術館からあと10分車を運転して広瀬町布部の加納美術館まで足を伸ばして欲しい」というご挨拶がありました。(千葉さんは加納莞菴の親族)

こうして、話題も尽きぬ中、お開きの時間を迎え、校歌二曲「赤山健児の歌 朝日直さす」と「山脈浮かびて」の斉唱に移り、「赤山健児の歌」では、初参加の堀江眞三人さん(2)が途中から上着を脱ぎ捨てて壇上に上がられ、見事な指揮演武を披露いただきました。お聞きしそびれましたが、応援団でいらっしゃったのでしょうか。そのお元気の指揮ぶりに会場はどよめきました。



「山脈浮かびて」では、多数の方が壇上に上がり、三好資子副会長と千葉潮幹事の二人の歌姫のリードのもと、これまた全員で声を枯らしてカブよく斉唱しました。



最後の万歳三唱の音頭は、総会14回連続参加の萩野貫悟幹事(12)にお願いし、皆で声高らかに万歳をし、無事、盛況裡にお開きとなりました。

なお、会場の外では、本年も下記四冊の松江関連本の「書籍販売」をしました。

「湖都松江34号」(松江文化観光協会)、「近影遠影」(高橋一清著)、「画家として平和を希う人として、加納莞菴の平和思想」、「まんが・平和をねがい続けた画家 加納莞菴」(いずれもメディアアイランド社)

四冊ともに完売に近く、皆様のご協力と書籍販売のご担当の皆様には厚く御礼申し上げます。

■総会・講演会・懇親会を支えていただいた皆さんを下記に紹介し、御礼に替えます

(敬称略)○総括：渡辺悟(20)○第一部司会：三好資子(20) 補佐：大浦綾子(22)○第二・三部司会：渡辺悟・補佐：松村聡(26・理5)・新宮富美子(27)○中央電気倶楽部担当：渡辺悟○受付・会計：三好資子・物種慶子(20) 鶴羽孝子(22) 新宮富美子・木田京子(27) 松田稚子(27) 千葉潮(30・理9) 富岡幸子(35)○会場設営・案内：梅木隆志(16) 岡久夫(17) 小田一美(18) 岩田一志(19) 小敷賀健二(20) 内藤善夫(22)○来賓担当：押田良樹(11) 松本耕司・梅木隆志○監査報告：鶴羽孝子○スライド制作：押田良樹○映像音響・録音・照明：宍道弘志(31) 補佐：内藤善夫・松村聡・福岡則博(26)○カメラ：統括：土田和男(16) 内藤善夫・鶴羽孝子・浅沼吉正(32) 田黒公司(32) 長谷川浩之(38)○書籍販売：大浦綾子・木山洋子(22) 河村敦子(24) 瀬戸口二三子(24) 千葉潮



総会議事(1) 近畿双松会 活動事業報告

2016(平成28)年度 (総会以降)

11月	27日	(日)	平成28年度「総会・講演会・懇親会」 (於：中央電気倶楽部、参加者はゲストを含め116名) 講演は清原正義氏(高16期)兵庫県立大学学長 演題は「大学は変わるか?・・兵庫県立大学の試みと学長の苦労話」
	"	"	平成28年度「会報」の編集開始
12月	8日	(木)	第38回近畿双松会ゴルフ(秋季)(参加8名、於：武庫ノ台)
1月	7日	(土)	事務局会議 & 有志新年懇親会(参加23名)
2月	4日	(土)	平成29年度新年役員懇親会(新年度方針確認)(参加21名)
3月	11日	(土)	事務局会議開催(新年度事業方針打ち合わせ)
	25日	(土)	第10回落語鑑賞会(トリイホール・参加24名)
	29・30日	(水・木)	第2回松江北高野球部大阪遠征応援(八尾高校・箕面東高校)
	31日	(金)	平成28年度会報の発行
	"	(金)	平成28年会計年度終了

2017(平成29)年度

4月	1日	(土)	平成29年度事業・会計開始
	8日	(土)	平成29年度事業計画ならびに平成28年度会報の発送
6月	1日	(木)	第39回近畿双松会ゴルフ(春季オープン)(参加26名、於：武庫ノ台)
7月	23日	(日)	第12回文楽鑑賞会(参加28名、於：国立文楽劇場)
9月	3日	(日)	事務局会議開催(H28年度監査&秋季事業の打ち合わせ)
	10日	(日)	平成29年度総会懇親会の案内を発送
	25日	(日)	第12回歴史ウォーキング 「NHK大河ドラマ”おんな城主直虎”から、彦根を訪ねて」(参加36名)
10月	14日	(土)	東京双松会総会(松本会長表敬出席)
	15日	(日)	”次代につなぐ”25(理4)期同期会開催支援(参加8名)
	22日	(日)	”次代につなぐ”27(理6)期同期会開催支援(参加13名)
11月	3日	(金)	第7回里山棚田歩くぞ!ハイキング(台風中止のリベンジ開催) 「交野・星田園地の”星のブランコ”を空中遊歩」(参加16名) (※当初予定の10/29、23名予定は台風22号のため中止)
	18日	(土)	事務局会議開催(総会懇親会最終打ち合わせ)
	26日	(日)	平成29年度「総会・講演会・懇親会」 (於：中央電気倶楽部、参加者はゲストを含め100名) (講演は泉 紳一郎氏(高24・理3期)大和大学理工学部設置準備室長 演題は「科学技術の担い手の育成」～日本の将来のキーポイント～)
	"	"	平成28年度「会報」の編集開始
12月	5日	(火)	第40回近畿双松会ゴルフ(秋季)(参加9名、於：武庫ノ台)
1月	7日	(日)	新年有志懇親会開催(参加18名)
	21日	(日)	宝塚歌劇鑑賞会(テストトライ：参加36名、於：宝塚大劇場)
	27日	(土)	平成30年度役員会(於：中央電気倶楽部、参加者20名)
3月	18日	(日)	第11回落語鑑賞会(於：天満天神繁昌亭、参加予定28名)
	未定		第3回松江北高野球部大阪遠征応援
	31日	(土)	平成29年度会報の発行
	31日	(土)	平成29年会計年度終了

HPアクセス件数 2018.3.14 現在 38,498件(前年+3,763件)
(2017.3.9 現在、34,735件)

総会議事(2) 近畿双松会 会計・監査報告

2016(平成28)年4月1日～2017(平成29)年3月31日

(単位：円)

収入の部	支出の部
<p>◎ 前期繰越金 1,734,498</p> <p>◎ 収入計 2,381,863</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度 運営費支援助入 664,000 ・平成28年度 寄付・広告収入 314,000 ・平成28年度 総会参加費 879,000 ・平成28年度 諸行事参加費収入 400,140 ・平成29年度 役員会参加費 73,000 ・その他収入・雑収入 51,700 ・利子収入 23 	<p>◎ 支出計 2,070,155</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通信費 189,278 ・印刷費 77,706 ・事務費 185,198 ・郵便、銀行手数料等 25,092 ・平成27年度 会報費 192,320 ・平成28年度 総会費 865,006 ・平成28年度 諸行事支払い 404,661 ・平成29年度 役員会会議費 76,652 ・その他支払い・雑費 54,242 <p>◎ 次期繰越金 2,046,206</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内訳 <li style="padding-left: 40px;">(郵便貯金振替残) 1,836,655 <li style="padding-left: 40px;">(郵便貯金) 140,034 <li style="padding-left: 40px;">(現金) 69,517
<p>◎ 総合計 4,116,361</p>	<p>◎ 総合計 4,116,361</p>

(注) 繰越金前年比 (+) 311,708

上記のとおり報告いたします。

事務局長(副会長) 渡辺 悟 ㊟

監査の結果、正確に処理・記帳されていることを認めます。

2017(平成29)年9月3日

監事 物種 慶子 ㊟

監事 鶴羽 孝子 ㊟

総会議事(3) 2017(平成29)年度 近畿双松会役員

2017/11/26 総会承認

役	期	氏名	役	期	氏名
常任顧問	高7	山本雅昭	常任幹事	高18	小田一美
常任顧問	高11	押田良樹	常任幹事	高19	岩田一志
			幹事	高19	池田喜美代
会長	高16	松本耕司	常任幹事	高20	山崎麻里子
			常任幹事	高20	小敷賀健二
副会長	高16	梅木隆志	常任幹事	高22	村田貢
副会長(兼)	高20	渡辺悟	常任幹事	高22	内藤善夫
事務局長			幹事	高22	大浦綾子
副会長	高20	三好資子	常任幹事	高23	松本潤
			幹事	高23	松本幸子
監事	高20	物種慶子	幹事	高24(理3)	岩間令道
監事	高22	鶴羽孝子	幹事	高24	糸原直彦
			幹事	高24(理3)	泉紳一郎
常任幹事	中68	荒銀昌治	幹事	高24	吉城聖顕
幹事	中68	青戸元也	幹事	高26	福岡則博
幹事	高1	荻田運三郎	幹事	高26(理5)	松村聡
幹事	高2	久保田幸雄	幹事	高27	新宮富美子
幹事	高3	緒形公士	常任幹事	高29	廣瀬弘美
常任幹事	高5	山田稔	幹事	高30(理9)	千葉潮
幹事	高6	田村稔久	常任幹事	高31	宍道弘志
常任幹事	高7	廣政俣彦	幹事	高31	小林満
幹事	高8	山崎 杲	幹事	高31	西村英明
幹事	高9	清水良子	幹事	高32	藤本斉子
(新)幹事	高10	面白 紘	幹事	高32	浅沼吉正
幹事	高11	田中一男	幹事	高32	木村滋樹
幹事	高12	萩野貫悟	幹事	高33	柳井利明
幹事	高13	永江幹雄	幹事	高34	細田昌幸
常任幹事	高14	加藤巡一	幹事	高34	山岡雅仁
常任幹事	高15	金坂喜好	常任幹事	高35	富岡幸子
幹事	高15	安達和彦	幹事	高36	森口次郎
常任幹事	高16	土田和男	幹事	高43	安達宏昭
幹事	高16	三成宏二			
常任幹事	高17	岡久夫			

以上59名

2017(平成29)年度 総会・講演会・懇親会 出席者名簿

ご来賓

	卒業期	卒業年	氏名	所属等
1	高 16	S 40	金 津 任 紀	双松会 会長(加賀小・加賀中)
2	高 16	S 40	金 平 憲	双松会 幹事長(母衣小・附属中)
3	高 28	S 52	小 山 理 久	松江北高校校長
4	高 62	H 23	堀 江 玲 美	松江北高教諭 双松会校内幹事
5	(松江商業)		伊 藤 征 治	近畿松江会 会長(北堀小・松江一)
6	(松江高専)		竹 谷 奨	近畿松江会 幹事長(八束小・八束中)

会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ
7	中 68	S 23	青 戸 元 也		島根師範付属小	旧松中	剣道・テニス部
8	中 68	S 23	荒 銀 昌 治		広瀬町小	旧松中	
9	高 1	S 25	伊 藤 雅 義		来待小	旧松中	生物部
10	高 2	S 26	久 保 田 幸 雄		川津小	旧松中	バレーボール部
11	高 2	S 26	堀 江 眞 三 人		北堀小	旧松中	
12	高 5	S 29	寺 本 尚 由		朝日小	松江三	陸上部
13	高 5	S 29	山 根 徹		附属小	附属中	
14	高 6	S 30	田 村 稔 久		北堀小	松江一	
15	高 7	S 31	青 戸 俊 夫		生馬小	生馬中	新聞部
16	高 7	S 31	廣 政 俣 彦		雑賀小	松江三	
17	高 7	S 31	山 本 雅 昭		恵曇小	恵曇中	バレー部
18	高 8	S 32	山 崎 杲		太田・久利小	松江二	
19	高 9	S 33	木 村 八 重 子	木山	母衣小	附属中	ソフトボール部
20	高 9	S 33	佐々木悦子	岡部	徳島市立津田小	松江一	
21	高 9	S 33	清 水 良 子	松尾	北堀小	松江一	化学分析班
22	高 10	S 34	面 白 紘		本庄小	本庄中	サッカー部
23	高 11	S 35	小久江良雄			松江四	
24	高 11	S 35	押 田 良 樹		雑賀小	松江四	軟式テニス・図書
25	高 11	S 35	田 中 一 男		白潟小	松江三	宍道湖一周 2・3年連続学年1位
26	高 11	S 35	畑 田 稔		附属小	附属中	卓球
27	高 11	S 35	村 尾 俊 治		雑賀小	松江四	絵画部

2017(平成29)年度 総会・講演会・懇親会 出席者名簿

会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ
28	高12	S36	萩野 貫悟	筒井	揖屋小	東出雲中(揖屋)	
29	高13	S37	安部 正毅		附属小	附属中	テニス
30	高13	S37	桑原 洋史		熊野小	附属中	
31	高13	S37	藤田トク子	小笹	白瀉小	松江三	ソフトボール部
32	高13	S37	山下 俱子	今井	乃木小	松江三	美術部
33	高14	S38	川上 克彦		附属小	附属中	
34	高14(山口高)	S38	小泉 勝是		北堀小	松江一	
35	高14	S38	木幡 晃正		宍道小	附属中	陸上部
36	高14	S38	三好 洋二		津田小	附属中	美術部
37	高15	S39	安達 和彦		佐太小	附属中	バドミントン部
38	高15	S39	金坂 喜好		大野小	大野中	
39	高15	S39	佐藤 修介		内中原小	松江一	新聞部
40	高16	S40	井上 伸久		川津小	松江二	
41	高16	S40	梅木 隆志		森山小(下宇部尾分)	美保関北中	陸上部
42	高16	S40	清原 正義		北堀小	附属中	陸上部
43	高16	S40	土田 和男		内中原小	松江一	バドミントン
44	高16	S40	坪倉 司郎		本庄小	本庄中	
45	高16	S40	松本 耕司		本庄小	本庄中	陸上部
46	高16	S40	森藤 哲章		広瀬小	広瀬中	軟式テニス同好会
47	高16	S40	山田 敬子	矢壁	松原(浜田)・川本・益田小	益田東中・浜田二中・浜田高校	美術部
48	高17	S41	岡 久夫		法吉小	松江一	陸上部
49	高17	S41	小脇 光男				
50	高17	S41	永井 貞泰		仁多・鳥上小	仁多・鳥上中	弓道・写真部
51	高18	S42	石賀 誠一郎		兵庫・豊岡小⇒北堀小	松江一	陸上部
52	高18	S42	太田 善博		安来小	安来一	
53	高18	S42	小田 一美		内中原小	松江一	天文気象部
54	高18	S42	桑原 勇		広島市中島小	松江一	剣道
55	高19	S43	岩田 一志		荒島小	安来三	バレー・文芸部
56	高19	S43	新見 泰朗		附属小	附属中	
57	高19	S43	万波 迪義		附属小	附属中	陸上部
58	高20	S44	小数賀 健二		法吉小	松江一	

会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ
59	高20	S44	渡辺 悟		附属小	附属中	ボート部
60	高20	S44	三好 資子	恩田	北堀小	松江一	(帰宅部)
61	高20	S44	物種 慶子	北脇	本庄小	附属中	
62	高22	S46	実重 祐二		安来小	安来一	
63	高22	S46	内藤 善夫		朝日小	附属中	陸上部
64	高22	S46	大浦 綾子	大浦	北堀小	松江一	機械体操部
65	高22	S46	木山 洋子	平田	三成・上山佐・広瀬小	広瀬・西郷中	
66	高22	S46	鶴羽 孝子	石橋	持田小	松江二	
67	高23	S47	近藤 文雄		安来・赤江小	安来三	サッカー
68	高23	S47	森脇 泰雄		内中原小	松江一	無線部
69	高24	S48	伊藤 澄夫				バスケット部
70	高24	S48	徳田 完二		隠岐・御波小	海士中	
71	高24・理3	S48	泉 紳一郎		附属小	松江一	バスケット部
72	高24・理3	S48	岩間 令道		附属小	松江一	
73	高24	S48	河村 敦子	橋本	法吉小	松江一	
74	高24	S48	瀬戸口二三子	三隅	本庄小	本庄中	茶道
75	高26	S50	伊藤 博之		宍道小	宍道中	写真
76	高26	S50	川谷 徳彦		古江小	古江中	JRC
77	高26	S50	周藤 達夫		北堀小	松江一	社研
78	高26	S50	福間 則博		雑賀小	(県外)	サッカー部
79	高26・理5	S50	松村 聡		北堀小	松江一	
80	高26	S50	井山 裕子		佐太小	附属中	バスケット
81	高26	S50	斉藤 保子	松平	長江小	古江中	ESS
82	高26	S50	前羽 香江	幡	附属小	附属中	JRC
83	高26	S50	矢野 美紀子	難波	小田小	赤来中	バレーボール
84	高27	S51	木田 京子	能海	本庄小	本庄中	
85	高27	S51	新宮 富美子	新川	母衣小	松江二	
86	高27	S51	松田 稚子	永島	意東小	東出雲中	硬式テニス
87	高28	S52	赤井 真一郎		母衣小	松江二	硬式庭球部
88	高30・理9	S54	千葉 潮		安来小	安来一	考古学
89	高31	S55	宍道 弘志		内中原小	松江一	弓道部

2017(平成29)年度 総会・講演会・懇親会 出席者名簿

会員

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ
90	高32	S56	浅沼吉正		城北小	松江一	バレーボール
91	高32	S56	田黒公司		隠岐・知々井小	海士中	
92	高35	S59	富岡幸子	三和	七類小	美保関北中	
93	高38	S62	長谷川浩之		白潟小	松江三	野球部
94	高43・理22	H4	今西亜子	井山	法吉小	附属中	写真部

学生ゲスト

	卒業期	卒業年	氏名	旧姓	出身(小)	出身(中)	クラブ
95	高65	H26	山根一真		生馬小	松江一	陸上部
96	高67	H28	野々村瑞雅		津田小	附属中	ESS
97	高68	H29	仲井慧悟				
98	高68	H29	関根由真		中央小	松江三	放送部・ESS部
99	高68	H29	田中美帆				
100	高68	H29	寺井萌乃				

開会ご挨拶
近畿双松会会長
松本 耕司 (16)



皆様 こんにちは。

ただ今の会長を仰せつかっております16期の松本耕司でございます。どうぞよろしく願いいたします。

冷え込みがめっきり厳しくなりました中、こうして多数の会員の皆様にお集まりいただき、総会が開催できましたこと、真に嬉しく、心から御礼を申し上げます。

また、ふるさと松江からは双松会の金津会長様、金平幹事長様、そして母校からはこの春、新しく校長に就任されました小山校長先生、校内幹事の堀江先生には、朝一番、7時前の「やくも」に乗られたのではないかと思います。遠路はるばるお越しいただき、真に有難うございました。

さらに、この近畿で、ふるさと会としてご指導をいただいています近畿松江会の伊藤会長様、竹谷幹事長様にはご多用のところを駆けつけていただき、厚く御礼申し上げます。

加えて、現在、この近畿で勉学に励んでおられます学生ゲストの皆さんもようこそお出でくださいました。この会場にいらっしゃるのは年齢こそ離れていまして、まちがいなく松中、松高、北高という同じ釜のメシを食った、皆さんの先輩たちでございますので、今日は固くならないで、存分に楽しんでいただければと存じます。

ご来賓、学生ゲストの皆様には、後ほどあらためてご紹介をさせていただきますが、まずは高い席からではございますが、厚く御礼を申し上げます。

さて、近畿双松会は、来年で設立60周年を迎えます。正確には大正の末には活動が始まっているとのことですので、90年を超えている訳ですが、戦後の活動が昭和33年に再開されていますので、そこから数えますと、いよいよ来年で「還暦」ということでございます。本当によく続いてきたものだと思います。

この60周年を充実した形で迎え、さらに次の時代につなげていくことが、ただ今の我々の最大の課題だと考えております。

そのための活動の一つをご紹介しますと、近畿双松会では去年から、まずは20期代の各期で、近畿での同期会を開催しておられない期に対して、積極的に開催を呼びかける活動を始めております。

この「次代につなぐ」活動が果たしてどういう成果となるか？ きっと成果は上がるだろうと期待して、できる範囲で続けてまいりたいと考えております。これが、去年、今年のも最も特徴的な取り組みではないかと考えますので、皆様にご報告申し上げる次第です。何かと会員の皆様のご支援、ご協力をいただければ幸いです。

私は常日頃から、近畿双松会のような縦の年次の会では、同期は励まし合うと同時に、先輩を尊敬し、後輩を慈しむ、という気持ちがなければ続いては行かないのは元より、そうであってこそはじめて、会の目的の一つであるふるさとや母校の発展にも貢献できるのではないかと考えております。

そのためにも、まずは今日のこの会が「楽しくなごやかな会」でありたいと、心から願っておりますので、皆様のご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、本日お集まりいただきました皆様の益々のご多幸をお祈り申しあげまして、簡単ではございますが、開会のご挨拶とさせていただきます。有り難うございました。

来賓ご挨拶
双松会会長
金津 任紀 (16)



皆様 こんにちは。

ただ今、ご紹介いただき

ました私は、近畿の松本会長と同期16期の金津でございます。2017年近畿双松会総会のご開催に際し、ひと言ご挨拶を申し上げます。

本日はお招きをいただきまして真に有難うございます。そして沢山の近畿の皆様のご参加をいただきまして総会が開催されますこと、心からお慶びを申し上げます。

近畿双松会の皆様には、日頃、双松会の事業や運営に格別のご理解とご協力を賜わり、深く感謝を申し上げます。

私、一昨年、双松会の会長に就任し、早いもので今年で一期三年の最終年になりました。二年目の昨年は、丁度母校創立140周年の節目を迎え、多くの皆様のご参加とご協力で無事に記念総会を終えることができました。

その折には近畿からも多くの皆様に遠路松江までお運びいただき、盛り上げていただき、真に有難うございます。次回は、更なる交流と親睦を深めるため、なお一人でも多くの皆様にご参加いただければと存じております。

今日、こうして総会にご出席いただいた皆様は、何時も、松江中学や松江高校、そして松江北高の出身であること、また、郷土島根のことをお忘れになつたことはないと思います。関西から島根頑張れ、北高頑張れ、と応援していただくことが、双松会の結束をより強固なものにしていくことになるだろうと考えております。

今、教育界は少子化等の問題から学校間の競争はより厳しくなり、これまで以上に学校の特色が求められています。母校北高も時代のニーズに即した新たな学校づくりに取り組んでいます。

昨年、グローバルに通用する人材づくりをめざし、140周年事業として「世界の人たれ！北高生基金」を創設したのもその一つでございます。皆様に募金をお願いしましたところ、目標を上回る多大なご厚志を賜わり、あらためて皆様の母校に対する熱い思いを感じ、本当に嬉しく思いました。

近畿双松会の皆様からも多額のご寄付をいただきました。あらためてお礼を申し上げます。皆様のその思いが魅力ある学校づくりの一助になること念願してやみません。

双松会の存在意義は会員相互の親睦を図ることは勿論、先輩、後輩の絆を深め、母校の校風、伝統を若い世代につないでいくことだと思っております。

卒業生にとって母校の隆盛や生徒の活躍は大きな励みであり、これに勝る喜びはありません。今後も母校が様々な分野で活躍できる優秀な人材を育み、時代を越えて存在し続けることを願うとともに、引き続き双松会の活動に対しまして一層のご指導、ご支援を賜りますようお願いを申し上げます。

今日の近畿双松会総会は、私も大変楽しみにしておりました。昔話や近況を語り合い、楽しく過ごしたいと思います。

皆様方の親睦が一層深まり、近畿双松会がなお一層発展していかれることを心から願い、会員の皆様のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げましてご挨拶とさせていただきます。

本日は真におめでとうございます。

来賓ご挨拶 松江北高校校長 小山 理久 (28)



皆様、こんにちは。

ご紹介のとおり、泉前

校長の後任として松江北高の校長に就任しました小山と申します。私は28期ですので、北高が川津にあった時の最後の卒業生でございます。

金津双松会長のお話にもありましたが、昨年の設立140周年式典へのご協力、真に有難うございました。

ご寄付いただきました「世界の人たれ！北高生基金」につきましては、これを有意義に使わせていただくよう考えております。

一、ご紹介しますと、短期留学を志す生徒への費用補助を10年間実施。また、各年ですが日本への留学生を招いての英語での交流による国際理解学習。さらに毎年1～2名の卒業生を招いて「世界の人たる北高生を育てよう」という趣旨での講演をいただいておりますが、その支援にも利用させていただこうと思っております。

皆様方からいただいた浄財をそういった形で「北高の生徒を育てる」ことに使わせていただきたく考えておりますのでご報告をし、重ねてご理解をお願い申し上げます。

実は、私、前任は大社高校の校長ですが、今朝の「やくも」に松江から乗ったら、大社高校の先生と一緒にになりました。大社高校同窓会である「近畿いなさ会総会」がこちらと一緒に時間にあるとのこと、その奇偶さに思わず学校のこと、同窓会のことを語り合いながら、大阪に着いた次第です。

さて、今日は現在の北高の現状も報告したいと思います。お手元の松江北高校の「学校案内」は中学生と保護者たちのためにつくっているものですがご覧ください。(12P構成。北高の教育目標・方針、学校の概要・沿革、普通科・理数科の特色、進路、部活動、一年の学校生活、一日のスケジュールなどの概括を掲載)

それに関連し、今年の春の「進路状況」の特徴を言えば、医学部医学科に進んだ生徒が大変多く、そのぶん東大、京大などへの進学者が若干減った形になったことです。

また、「部活動」では平成27・28年と2年連続、県総体で総合優勝をしていましたが、今年は残念ながら大社高校に負けてしまいました(笑)。生徒たちは精一杯頑張りましたが、今年は優勝までには至らなかったということでした。

そして、この学校案内パンフレットを補う形で、「北高生の一年間、一日」に主眼を置き、「DVD」をつくりました。中間試験が終わってから私が急に生徒会に頼んだもので、生徒たちが相談しながら、「中学生と保護者向け」に自分たちの手でつくったものです。時間のない中で頑張ってくれましたが、今からそれをご覧くださいませ。

(5分30秒のDVDを鑑賞) (拍手)

今、島根県の高校入試は、昭和42年度から第二志望校制をとっていたものが、今年春から出願は1校のみということになりました。それだけに、先ほど金津会長も触れられましたように「北高にはどういう魅力があるか、どういった力がつくのか」を、中学生・保護者たちに訴えていかなければなりません。

特に、2020年から大学入試の方法が大きく変わりますので、先生たちも「魅力ある、力をつけていく北高づくり」に一生懸命取り組んでいるところです。「学習と部活動の充実」に加え、「課題探求型の学習」にも取り組んでいて、例えば、「ウナギの宍道湖での養殖」に取り組むグループも出てきたりしています。

そういったことで、今年は社会の大きな変化に合わせ、「北高も新しく更に進化していかなければならない」と、校長以下思っているところであります。

皆様には、各面でいろいろなお支援をいただくことになるとと思いますが、どうぞよろしく願い申し上げます。

本日は、お招きいただきまして有難うございました。

▼国公立大学(現浪計228名合格)

平成29年3月31日

東京大学1名、京都大学1名、国公立医学科13名を含む228名の生徒が国公立大学に合格しました。そのうち、難関10大学(北海道大・東北大・東京大・東京工業大・一橋大・名古屋大・京都大・大阪大・神戸大・九州大)の合格者は29名でした。国公立大の合格者は過去5年間で最大数でした。また、私立大学の合格者数は、延べ253名でした。

▼小山新校長就任 平成29年度がスタート

平成29年4月1日

大社高校から、小山理久新校長を迎え、平成29年度がスタートしました。今年度は1、2年生がそれぞれ7クラス、3年生が8クラスで全校生徒数は864名、起雲館にある補習科生は31名でスタートしました。平成29年度の幕開けです。



▼第55回島根県高等学校総合体育大会 『総合第2位』

平成29年5月26日～6月3日

第55回島根県高等学校総合体育大会が開催されました。各々が日頃の練習の成果を存分に発揮してくれました。結果は、男子総合2位、女子総合3位(去年は男子総合3位、女子総合3位)の成績を納め、男女総合は惜しくも2連覇は達成ならず、2位(1位は大社高校)という結果でした。



▼登山部が島根県高等学校総合体育大会 男女アベック優勝、全国総体へ

全国高等学校総合体育大会登山大会(山形県)へ本校登山部がアベックで出場しました。上位入賞は果たせませんでしたが、山形県の秀峰を踏破し、日ごろの地道なトレーニングや学習の成果を発揮しました。



▼弓道部(男子)全国高等学校総合体育大会 ベスト8 達成

平成29年8月1日～4日

弓道部(男子)が県総体で団体優勝し、58年ぶりにインターハイに出場しました。そして結果は、なんと! 58年前と同じ全国ベスト8に輝きました。



(注)この記事は、北高教頭、双松会渡部勝事務局長に特別制作のご協力をいただきました。

▼学園祭(紅陵祭) 盛大に!

平成29年8月30日～9月1日

今年も学園祭(紅陵祭)が盛大に行われました。「咲～新たな奇跡の芽が咲く みんなの笑顔咲く」をテーマに3日間の生徒による様々なドラマが繰り広げられました。伝統の2日間にわたる文化祭と3日目は体育祭でした。

初日の、県民会館にサプライズゲストのDAIGOを招いての交流は大いに盛り上がりました。合唱コンクールや文化部発表、クラス展示など、どれも趣向を凝らし、学びの成果が溢れた北高生らしいものでした。最終日の体育祭は各種競技で盛り上がり、3年生によるページェントはまさに圧巻でした。保護者をはじめ多くの来校がありました。



▼百人一首かるた部 大健闘!!

平成29年7月31日～8月2日, 10月28日～29日

下舞 陽菜(3年)さんが、第41回全国高等学校総合文化祭小倉百人一首かるた部門 読手コンクールの部で優秀読手(全国三位)に輝きました。また、続く後輩も健闘しています。

第20回中国地区高等学校小倉百人一首かるた大会で、益田・松江北合同チームが団体戦で見事に優勝しました。



▼双松(二本松)の1本 松くい虫の被害に

平成29年10月10日

すくすくと順調に成長していた双松の1本が松くい虫の被害に遭い、やむなく10月10日に撤去作業が行われました。現在、次の候補の松を赤山敷地内で策定中です。

(⇒関連記事をP5・P48に掲載)



右の松が赤く枯れて…

▼青少年読書感想文全国コンクール 文部科学大臣賞

平成30年1月

第63回青少年読書感想文全国コンクールの最終審査で本校1年の藤井菜那子さんが文部科学大臣賞(2位)に輝き、2月9日に東京で授賞式に臨みました。「アウシュビッツの図書係」(集英社)を読み、主人公の強さに心を打たれ、感想文を書き上げました。

▼大寒波・大雪、赤山に襲来!

平成30年2月5日～8日

節分が過ぎ、暦の上では春なのに今回の寒波は容赦なく、松江をすっぽり冷蔵庫の中にいるような空間にしました。臨時休校にはしませんでした。授業開始を遅らせるなど、学年末試験前に大きなダメージでした。





全員集合記念写真





総会・講演会・懇親会 写真



ご来賓の皆さん



中68・高1・2・5・6期の皆さん



高7・8・9期の皆さん



高10・11・12期の皆さん



高13・17期の皆さん



高14・15期の皆さん



高16期の皆さん



高18・19期の皆さん



高20・高27・28期の皆さん



高22・23期の皆さん



高24(理3)期の皆さん



高26(理5)期の皆さん



高30(理9)・31・32・35・38・43(理22)期の皆さん



学生ゲスト(高65・67・68期)の皆さん

総会・講演会・懇親会 写真





又、来年会いましょう

講演「科学技術の担い手の育成」

～日本の将来のキーポイント

講師：泉 紳一郎氏 (24・理3期)

(大和大学(吹田)理工学部設置準備室長)



昭和23年に湯川秀樹氏がノーベル物理学賞を受賞して以来、日本の受賞者はかなりの数に上っています。特に、2001年以降の自然科学系(生理学医学、物理学、化学)の受賞は16人と米国(55人)に次いで世界第2位。しかも、IPS細胞や発光ダイオードなど、いろいろな分野に広がっていて、誇るべきことだと思います。

しかしその一方、足元の現実は厳しいものがあります。世界で多く引用される学術論文はそれだけ影響力があるということなのですが、そうした優れた論文のシェア(「新しい知識が生み出されている度合の国際比較」)を見ると、日本は10年前、4位だったのが10位に転落し、8位だった中国が2位へと躍進しています(2016年統計)。

科学雑誌「ネイチャー」は2017年3月17日号で日本を特集し、「日本の科学技術レベルはこの10年地盤沈下を続けており、手をこまねいていればその地位はさらに危ういものになる」と警鐘を鳴らしました。雑誌「Wedge」では「日本の国立大学はこのままではもうノーベル賞は取れなくなる」という特集が組まれています。

実際、ノーベル賞受賞者と直接意見を交わす機会があったのですが、その方々の発言を要約すると、①基礎的な投資②若手研究者の育成③国際的な鍛錬の場——を急がなければ、研究機能の空洞化と低

下が避けられないというものでした。

2017年の科学技術白書は、現状を「3つの危機」として分析しました。①研究の挑戦性・継続性をめぐる危機(研究費・研究時間の劣化)②次代を担う研究者をめぐる危機(若手研究者の雇用・研究環境の劣化)③「知の集積」をめぐる危機(研究拠点群の劣化)

この問題意識が施策にどう反映されているかですが、それを見る前に、戦後、科学技術の担い手の育成・確保がどう進められてきたか、少し振り返ってみたいと思います。

高度経済成長期の理工系学生は、1957年度～1960年度8,000人、1961年度～1963年度20,000人という増員計画で進められました。1966年の18歳人口は245万人と戦後ピークだったのですが、4年制大学への進学率は数%。そうして見ると、数万オーダーの理工系学生の増員がいかに大きな規模だったのかがよく分かります。

高校の「理数科」開設は1968年度。16都道府県32校、島根県では松江北と浜田に設置されました。現在は出雲、松江南、大田、益田が加わって計6校となっています。

私は3期でしたが、普通科とそれほど変わらない印象でした。理科4教科が必修で歴史は選択、それとコンピュータの授業があったくらい。最大の違い

●泉 紳一郎氏

附属小、松江一中、昭和52年東京大学工学部卒。旧科学技術庁で科学技術政策、原子力研究開発、宇宙政策等に携わる。平成13年の省庁再編に伴い、文部科学省で大学の教育研究に関する業務にも従事。平成18年筑波大学副学長、平成20年文部科学省科学技術・学術政策局長、平成22年内閣府政策統括官。その後政府を離れ、平成25年科学技術振興機構社会技術研究開発センター長。平成28年より現職・特任教授。生活拠点を大阪に移す。小学校から大学までバスケット部で活躍。元東京大学バスケットボール部監督。

は普通科が男女ほぼ同数だったのに対して、男子37人、女子3人という構成だったことでした。

1970年から80年にかけて、日本経済が順調に発展し、日本製品がよく売れていく中で、「日本は外国の基礎技術をうまく加工改良して輸出攻勢をかけている」という、いわゆる「基礎研究ただ乗り」批判に直面することになります。そうした中で、高度成長時代に始まった科学技術の担い手の育成・確保策が新たな展開を遂げていきます。

大学院の重点化が打ち出されたのは1991年。10万人だった院生は10年で20万人に拡充しました。そして1995年に科学技術基本法制定。5年間にやるべき施策、重点分野を定めたもので、昨年からは始まった5年計画では26兆円の投資計画が盛り込まれています。

2000年から「総合的な学習の時間」。総合的な問題解決型の授業という考え方が打ち出されました。そして、いわゆる「ゆとり教育」の揺り戻しが2000年代に入って始まります。象徴的な政策が2002年からの「スーパーサイエンスハイスクール(SSH)」。「将来の国際的な科学技術人材を育成することを目指し、理数系教育に重点を置いた研究開発を行う」のがSSHで、現在200校。島根では出雲高校と益田高校が指定されています。

教育基本法が改正されたのは2006年でした。「愛国心」が盛り込まれ、戦前回帰につながる等、論議を巻き起こしたのですが、注目したいのは、ここで大学についての規定が初めて明記されたことでした。つまり、大学とは「教育」と「研究」を行うところであり、その成果を「社会貢献」するところである。それがグローバルスタンダードであると。

そう規定された大学がその役割を果たすためには、どんなスタイルで研究を進めていくべきなのか。アメリカのある科学者の「モード論」によると、特定の学問領域の発展の道筋に沿って進められるのが「モード1」。それに対して、多面的な領域の知識を必要とする現実の社会の問題解決のための研究が「モード2」。

つまり、モード2の重要性は言うまでもないのですが、では、そのために何が必要なのでしょう。一つは多様性です。性とか国籍といったものを超えた多様性。たとえば、4年前、北高理数科45期の皆さんの関東研修旅行の際に東京で懇談する機会があったのですが、半分近くが女生徒でした。私の時は男子37人に女子3人でしたから、本当にびっくりしました。

しかし、日本の官民合わせた研究者における女性の割合は15%で、OECD諸国の中で最下位。数年前は10%だったから増えてはいるのですが、多様性を拡大する意味でも若い人たちに頑張ってもらいたいと思います。

多様性の次は、Trans-disiplinary。「超域」「超学際」と訳されています。通常の学問の連携を超えて、研究者や大学だけでなく、問題に対してより広く利害がかわる人たち(ステークホルダー)が研究に参加すること。そしてその結果得られる成果を共有すること。

実際、企業や大学、研究機関はインターネットなどを通してその成果をどんどんオープンにすることでイノベーションを達成し始めています。

人工知能やゲノム編集など、「人間の意識」「生命の本質」により一層かかわりながら、科学技術は猛烈なスピードで進んでいます。つまり、人々や社会の価値観、規範意識、行動にかかわる知識を抜きにして科学技術の発展はあり得ず、(自然科学系ではない)文化系・人文科学系の学問の重要性がますます大きくなっていくと思います。

昨年この場で講演された清原正義・兵庫県立大学学長(16期)は、今春、島根県立大学学長就任会見で、「地域貢献で日本一を目指す」と表明されました。島根大学も含めて、島根の大学が、「オープン」「社会貢献」「地域貢献」といった方向に向けて努力を重ねておられると認識し、敬意を表する次第です。

ご清聴ありがとうございました。

(文責=事務局)

2017(平成29)年度 「運営費支援、寄付・広告」ご協力者ご芳名 (敬称略)

近畿双松会は有志の皆様のご支援により運営しています。ここに名前を記して御礼とさせていただきます。

・中63期	肥塚隆正 坪倉修吉	・高7期	青戸俊夫 寺本好弘		田村迪子 中尾長子
・中68期	青戸元也 荒銀昌治		廣政俶彦 山本雅昭	・高12期	中川陽子 萩野貫悟
・中69期	杵築武彦		泉桂子		森倫也
・高1期	飯塚満男 伊藤雅義	・高8期	玉井洋子 黒田牧夫	・高13期	石川洋美 安部正毅
	宇藤二男丸 荊田運三郎		長谷川忠雄 山崎 杲		井上俊雄 今井勝治
	喜多川治美	・高9期	熱田光信 岩成哲男		桑原洋史 永江幹雄
	竹内一郎 林原信光		影山武男 坂本隆男		持田 勲 深澤千栄子
	和田亮介 田端要子		澄川光成 田中英明		藤田トク子 水野明代
・高2期	久保田幸雄 作野 宏		伴 稔也 真野 透		森脇順子 山下 俱子
	長崎 弘 成合茂博		山岡裕明	・高14期	内田一三夫 片山伸雄
	石本春枝 兼清久子		木村八重子 佐々木悦子		加藤巡一 木村修芳
・高3期	神田田鶴子 緒形公士		佐藤早智子 篠田いづみ		小泉勝是 木幡晃正
	佐藤藤芳 小川伸江	・高10期	清水良子 面白 紘		富永寿郎 古川幸孝
・高4期	泉 寛 治 田淵宗明		佐藤菁治 佐和田丸		宮原琢郎 三好洋二
・高5期	藤原小夜子 板垣衛武	・高11期	清水義男 清水小枝子		森山國久 新名貴久子
	客野 伸 寺本尚由		太田 厚 小久江良雄	・高15期	三島幸子 安達和彦
	仁宮竜聖 築 武 夫		押田良樹 神門英明		金坂喜好 佐藤修介
・高6期	山根 徹 荻野克彦		田中一男 野津 丞	・高16期	真庭 功 井上伸久
	田村稔久 永江秀一		畑田 稔 村尾俊治		梅木隆志 神田俊之
	森岡敏真 荒木タミ子		米澤伸夫 池尻和子		清原正義 佐々木康雄
	石原 綏子		今井洋子		

	土田和男		物種慶子		福間則博
	坪倉司郎		山寄麻里子		(理5)松村聡
	長野米一	・高21期	野津一雄		前羽春江
	松本耕司		花田幸久	・高27期	三浦清
	三成宏二		竹添則子		木田京子
	森藤哲章	・高22期	石川章		新宮富美子
	田中由美子		石橋善和	・高29期	松田稚子
	中安節子		内藤清志		石橋敏幸
・高17期	西村幸子		内藤善夫		太田春樹
	秋鹿隆		大浦綾子		山本修司
	浅津民夫		大濱緑		須藤聖子
	岡久夫		木山洋子		田中年恵
	後藤研三		鶴羽孝子		廣瀬弘美
	永井貞泰		西村紀子	・高30期	杉原伸治
	木島光子		松下和子		(理9)千葉潮
	島本妃早美	・高23期	朝比奈博則		田邊より子
	山口悦子		近藤文雄	・高31期	穴道弘志
・高18期	太田善博		松本潤	・高32期	田黒公司
	小田一美		森脇泰雄	・高34期	細田昌幸
	齋藤正治		和田邦孝		山岡祐子
	大堀愛子		今西桂子	・高35期	富岡幸子
・高19期	岩田一志		小松久美子	・高36期	森口次郎
	江角健一		橘千里	・高43期	安達宏昭
	佐々木勇		内藤みよ子		
	千葉秀二		西村充子		
	新見泰朗		松本幸子		
	榎原隆		山口紀子		
	万波迪義		吉岡恵子		
	元栄徹	・高24期	(理3)岩間令道		
	池田喜美代		吉城聖顕		
	江守久美子		(理3)泉紳一郎		
	大久保章子		河村敦子		
・高20期	小敷賀健二		瀬戸口二三子		
	金見幸夫		西田悦子		
	浜見良樹		水野順子		
	原田康二	・高26期	伊藤博之		
	渡辺悟		川谷徳彦		
	佐野和子		周藤達夫		
	三好資子		福島倫之		

以上218名(昨年比▲11名)
(平成30年2月6日現在)
ご不審の点は事務局までご確認ください

追 悼

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(平成28年11月総会以降、事務局にご連絡のあったすべてを掲載しました)

物故会員

期	氏 名	ご逝去年月日
中58期	山 本 文 彦 様 (堺 市)	平成23年4月
中61期	中 村 悦 夫 様 (柏 原 市)	平成28年12月
中62期	吉 田 祝 雄 様 (京 都 市)	平成29年2月4日
高2期	永 井 達 也 様 (堺 市)	平成28年5月1日
高2期	竹 森 英 二 様 (吹 田 市)	平成29年6月
高6期	引 野 光 夫 様 (堺 市)	平成29年1月4日
高6期	野 村 佳 子 様 (明 石 市)	平成29年10月27日
高9期	松 井 駿 子 様 (高 槻 市)	平成29年6月18日
高10期	石 倉 末 広 様 (奈 良 県 北 葛 城 郡)	平成29年3月18日
高11期	新 谷 勇 人 様 (豊 中 市)	平成29年9月19日
高12期	清 野 郁 子 様 (豊 中 市)	平成29年4月25日
高17期	多 久 和 静 夫 様 (枚 方 市)	平成29年6月16日
高17期	原 田 博 子 様 (摂 津 市)	平成30年1月24日

お知らせとご紹介

※会員のご著書や絵・写真・書などの作品の掲載については、事務局までご一報ください。

■高橋一清様（一社法人・松江観光協会観光文化プロデューサー）からのお便り

高橋一清様は益田市生まれの島根県人で山口高校・早稲田大学第一文学部卒後、文藝春秋各誌編集長を務められた方で、現在、ふるさと松江の観光・文化振興のためにご尽力をいただいておりますが、昨年の「近畿双松会報」をお届けしたところ、事務局に次のようなお便りをいただきました。高橋様には日頃から当会に対しご高配をいただき、当会も日本一の街の情報誌「湖都松江」の普及にご協力をしておりますが、今回は余りの嬉しさに、会員の皆様にもお知らせする次第です。



高橋一清氏

～高橋様からのお便り～

本日は「近畿双松会報」をお送りいただきありがとうございます。実に楽しい雰囲気雑誌面いっぱい感じられました。みなさん喜んで、幾日も眺め、読み込んで楽しんでおられる姿が浮かんできます。とりわけ、後半の面白さ、興味深さは格別です。

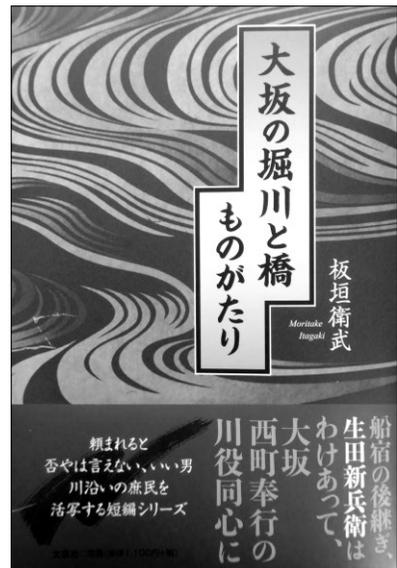
諸行事報告、会員近況報告、自由投稿、これらに不思議なエネルギーを感じました。単なる同窓会誌ではない、何か大事なものを確かめ合っている心の交流欄のような思いです。このようなものはなかなか作ることは出来ません。いい書物をいただきましたこと、感謝します。

●会員の著書紹介

「大坂の堀川と橋ものがたり」

板垣衛武さん（高5）著

本書は「西長堀川」（初出 2003、関西文学）、「順慶町夜市」（初出 2012、文藝かうべ）、「明和の抜け参り」（初出 2013、文藝かうべ）の三篇からなり、舞台は江戸時代の水運でにぎわう西長堀川岸の川番所、主人公は大阪西町奉行所の新米川役同心生田新兵衛です。頼まれると否やとは言えないいい男が、問題（事件）を解決しながら成長していく様子と、川沿いの庶民の姿がいきいきと描かれた短編シリーズで、著者が学生時代に、埋め立てられる前の西長堀川界隈で家庭教師をした経験もベースに生きているようです。当時の大阪の堀川と橋、そこにつどう人々の生活ぶりに関心のある方々にご一読をお勧めします。（四六判 151 ページ、1,100 円＋税、芸文社発行）



2017(平成29)年度 諸行事報告(骨子)

皆様のご参加をお待ちしています。年度初めのご案内に同封のハガキで申し込むか、HPでのつどのお知らせでご確認ください。

■第10回 落語鑑賞会

日時／平成29年3月25日(土)

会場／トリイホール

当会の会場として定着した感のある千日前のトリイホールで、今回は「笑福亭由瓶(ゆうへい)落語会」を楽しみました。

法善寺横丁のすぐそばで、二次会会場にも事欠きません。たくさんの会員が余韻を楽しみ、賑やかに時を過ごしました。



◆参加者は下記の24名(敬称略)

田村稔久・石原綾子&ご友人(6)、押田良樹・田村廸子(11)、萩野貫悟(12)、小泉勝是・古川幸孝(14)、梅木隆志ご夫妻・佐々木康雄・松本耕司(16)、岡久夫(17)、渡辺悟・佐野和子・三好資子ご夫妻・山崎麻里子(20)、大浦綾子・大浜緑(22)、山口紀子・吉岡恵子(23)、泉紳一郎(24理3)・瀬戸口二三子(24)

■第2回北高野球部の大阪遠征試合の応援

日時／平成29年3月29日(水)30日(木)

会場／29日八尾高校、30日箕面東高校

今年も北高野球部新2～3年生27名が選抜高校野球を甲子園で見学した後、29日は八尾高校と、30日は箕面東高校グラウンドで同校と泉大津高校との三校巴戦をおこない、3勝1分けの好成績でした。

「今年は、練習試合は大体勝っています」という可愛い女子マネ君の言葉に、思わず、夏の島根県大会を期待してしまいましたが、世の中、そうは甘くはなかったようです。

来年も大阪遠征を考えているとのことで、松江からの春の風物詩として定着しそうですが、応援のご参加が増えることを願っています。



◆参加者は下記の5名(敬称略)

木村八重子(9)、田中一男(11)、梅木隆志・松本耕司(16)、水野順子(24)

■第39回 ゴルフコンペ(春季)

日時／平成29年6月1日(木)

会場／武庫ノ台ゴルフコース

小數賀健二さん(20)が初優勝!

春季は双松会員以外の方にも広くご参加いただく形にしてから2回目ですが、過去最多の26名の参加となりました。

梅雨入り前の願ってもない好天気のもとで、ダブルペリアでの熱戦が展開され、小數賀健二さん(20)がグロス86、ハンディ13.2、ネット72.8の好成績で2回目の参加で見事初優勝、バスグロも獲得する実力者ぶりを発揮しました。2位は、木村恵吉さん(ゲスト)、3位は青戸俊夫さん(7)でした。





◆参加者は下記の26名(敬称略)

(会員)客野伸・仁宮龍聖(5)、青戸俊夫・寺本好弘・廣政倅彦(7)、木村八重子・佐々木悦子(9)、押田良樹・畑田稔(11)、井上伸久・梅木隆志・松本耕司(16)、小敷賀健二・佐野和子・三好資子ご夫妻(20)、石橋善和(22)、田黒公司(32)以上18名
(ゲスト)伊藤征治、井上隆吉、大野賢造、神谷紀男、木村恵吉、武田貞雄、竹谷奨、安島幸雄 以上8名

■第12回 文楽鑑賞会

日時／平成29年7月23日(日)
会場／国立文楽劇場
演目／「源平布引滝」

文楽鑑賞会も12回目となり、今回は11期の臨時ミニ同期会も開催され、松江・出雲からのご参加もあって28名もの多数のご参加になりました。

今回の「源平布引滝」(義賢館の段 矢橋の段 竹生島遊覧の段 九郎助住家の段)は平家が全盛を迎えた頃の時代を背景に、敗れた源氏の白旗の運命と、源義仲の誕生秘話を、実在の人物と史実を元に、作者(並木千柳(宗輔)・三好松洛の合作)が自由奔放、奇想天外に創作を加えた力作で、実に4時間近くの長丁場でした。

作者が意図した目まぐるしい展開に引き込まれ、時間を忘れるほどでしたが、作者は大衆を喜ばせるためには何でもありで楽しかったらうなあと、その構想力に感心しました。ニヤリと笑う作者の顔が



見えるようですが、それを承知で鑑賞するのが文楽の醍醐味なのかもしれません。なお、いかに破天荒な筋立てであるかは、押田良樹さん(11)が詳しくHP(2017.8.23)に報告しておられますので、ぜひご覧ください。



◆参加者は下記の28名(敬称略)

兼清久子(2) ご友人二人、田村稔久(6)、木村八重子・佐々木悦子・清水良子ご夫妻(9)、押田良樹・石倉昭子(松江)・高橋利美(出雲)・田村廸子・手納恒世(出雲)・中尾長子(11)、松本耕司・森藤哲章(16)、渡辺悟・三好資子ご夫妻(20)、大浦綾子・大浜緑・木山洋子・鶴羽孝子(22)、小松久美子・橘千里・西村充子(23) <ゲスト>橋本充男ご夫妻

■第12回歴史ウォーキング 「井伊家のお膝元・彦根を歩く」

日時／平成29年9月24日(日)
コース(概略)／

彦根駅→いろは松→開国記念館→馬屋→表門→天秤櫓→太鼓門櫓→天守→西の丸→黒門→玄宮園→井伊直弼銅像→表門→夢京橋キャッスルロード界限で昼食→足軽屋敷→芹川けやき並木→七曲り→袋町→彦根駅

本年は大河ドラマ「おんな城主 直虎」に因んで、井伊家の居城彦根城界限を散策。九州は熊本、長崎からのご参加もあり、申し分のない秋晴れのもと36名と過去最多の人数となりました。



「まだか?天守は」

午前中だけや、午後&打ち上げだけの参加とされた方や、彦根駅になぜか湖西線周りで琵琶湖を一周されてご到着の方もあって、ゆるやかに気楽にご参加いただけたことも、この会の進歩?を物語っているようでした。

今回は、彦根の下町も散策することができ、城下町全体としての規模の大きさを実感しましたが、松江が勝っているものは何だろうという話になり、「ご老公、足元にはご注意ください」天守閣そのものと、天守に至る石段の登りやすさは、間違いなく松江だろうと衆目が一致した次第でした。



今回のすべての企画と下見をいただいた三好資子副会長ご夫妻(20)に感謝をしつつ、例によって駅前の鉄板焼き屋で気炎を上げ、彦根に乾杯をしました。



「壮観! 36名、誰が誰だか?」

◆参加者は下記の36名(敬称略)

田村稔久(6)、坂本隆男・田中英明・木村八重子・佐々木悦子・清水良子・田代寿美(熊本)(9)、押田良樹・木村浩・田中一男・村尾俊治・田村廸子(11)、萩野貫悟(12)、森廣真(長崎)(13)、小泉勝是・古川幸孝・三島幸子(14)、梅木隆志・佐々木康雄・土田和男・長野米一ご夫妻・松本耕司・森藤哲章・田中由美子(16)、岡久夫(17)、渡辺悟・佐野和子・三好資子ご夫妻・山嵯麻里子(20)、大浦綾子・木山洋子(22)、山口紀子(23)、泉紳一郎(24理3)・瀬戸口二三子(24)

■第7回 里山歩くぞ! ハイキング

「登りもあるけど星のブランコを渡ってみよう」

日時/平成29年11月3日(祝・金)

(当初予定の10/29は台風22号のため中止)

コース(概略)/京阪電車私市駅から交野「ほしだ園地」内の「星のブランコ」往復

報告者/山嵯麻里子(20)

当初予定の10/29は23名の参加希望があり、満を持していましたが、無情な台風の接近に涙を飲んで中止にし、急遽11月3日に「リベンジ!」と銘打ち、16名の参加をいただいて開催しました。

待った甲斐があつて当日は文句なしのハイキング日和。「星のブランコ」まで階段や坂道が続くところもあつて心配をしましたが、先輩の皆様も健脚ぶりを発揮され、全長280m、高さ50mの星のブランコで、色づき始めた紅葉を眼下に空中散歩を楽しみました(足がすくんでいた方も)。展望スポットでは遙か遠くの京都や大阪北部の景色も楽しみました。

下りは上りとは別の道で、星田妙見宮や大阪夏の陣の徳川家康の陣営跡に立ち寄りながら、無事、私市駅に戻ることができました。幹事としては、一人の落伍者も怪我人もなく、「楽しかった、有難う」と声をかけて下さったことが何よりの喜びでした。打ち上げのビールが美味しかったことは言うまでもありません。来年は晴れますように!!



◆参加者は下記の16名(敬称略)

田中英明・佐々木悦子(9)、押田良樹・後藤武久・田中一男(打ち上げのみ)・村尾俊治(11)、小泉勝是・古川幸孝・三島幸子(14)、梅木隆志・松本耕司・森藤哲章・田中由美子(16)、山嵯麻里子(20)、大浦綾子・木山洋子(22)

■第40回 ゴルフコンペ(秋季)

日時/平成29年12月5日(火)

会場/武庫ノ台ゴルフコース

“秋男”田黒公司さん(32)が3連覇!

総会の慰労を兼ねての、双松会員だけの秋季コンペの参加者は9名。思わぬ寒波の襲来で天気晴朗なれど寒風厳しく、日陰のスタートホールでは、皆かじかむ手をこすり合わせながらの一日となりました。



ダブルペリアでの熱戦の結果、田黒公司さん(32)が、グロス90、ハンディ18.0、ネット72.0の昨年と全く同じスコアで秋季大会3連覇の偉業を成し遂げました。2位は廣政俣彦さん(7)、3位は畑田稔さん(11)でした。

余りの寒さに、12月のゴルフはやめようよ、と誓いました。



◆参加者は下記の9名(敬称略)

寺本尚由(5)、廣政俣彦(7)、押田良樹・畑田稔(11)、井上伸久・梅木隆志・松本耕司(16)、石橋善和(22)、田黒公司(32)

■2018(平成30)年度 事務局会議(兼)有志新年懇親放談会

日時/平成30年1月7日(日)

会場/曾根崎「がんこ」本店

事務局会議にご参加いただいている役員、昨年度の行事や総会のお手伝いをいただいた方にお声を

かけ、松本会長(16)突然の事情発生で欠席の中、有志18名で昨年度の慰労と新年度の決起の有意義なひと時を持ちました。



◆参加者は下記の18名(敬称略)

押田良樹・田中一男・村尾俊治(11)、小泉勝是・古川幸孝(14)、梅木隆志・土田和男・森藤哲章(16)、小数賀健二・渡辺悟・三好資子・物種慶子・山嵯麻里子(20)、村田貢(22)、泉紳一郎(24理3)、千葉潮(30理9)、宍道弘志(31)、富岡幸子(35)

■第1回「宝塚歌劇鑑賞会」(テストトライ)

日時/平成30年1月21日(日)

場所/宝塚大劇場

花組公演/

『ポーの一族』《主演》明日海りお、仙名彩世、原作/萩尾望都「ポーの一族」、脚本・演出/小池修一郎

前年の役員会での協議から、会員に喜んでいただければと新たな行事「宝塚歌劇鑑賞」にテストトライしましたところ、多数の方から参加希望をいただきました。



2017(平成29)年度 諸行事報告(骨子)

『ポーの一族』は、漫画史上の傑作を初めて宝塚の舞台上で実現したもので、永遠に年を取らず生き永らえていくバンパネラ(吸血鬼)の一族の物語でした。バンパネラ?と聞いて一抹の不安も感じながらでしたが百聞は一見に如かず、不安など吹き飛ばしてしまうほどの素晴らしい舞台上に圧倒され、伸びやかな歌声にすっかり魅了されました。

2,550席が満席、加えて当日立ち見席も満員という中で「豪華絢爛な宝塚の魅力」を満喫し、ひと時ですが現世(の憂さ?)を忘れ、精神衛生上もおおいに結構だな、と思った次第です。



ロビーも混雑、記念写真も何組かに分けて・・

興奮冷めやらぬ中、屋敷仕立てで趣のある「がんこ宝塚苑」での遅めの昼食会では、皆さんから口々に「よかった、これからも続けて・・」の感想をいただき、テストトライは大成功でした。



打ち上げ会場にも趣きが・・

また、宝塚大劇場前の「花のみち」には、松江市との姉妹都市友好50周年記念の桜の植樹がされたばかりで、今後は毎年この桜の成長を見届けるのも楽しみになりそうです。

◆参加者は下記の36名(敬称略)

木村八重子・佐々木悦子・佐藤早智子・清水良子ご夫妻(9)、安部正毅ご夫妻・藤田トク子・水田昭子(13)、坪倉司郎ご夫妻・松本耕司・森藤哲章ご夫妻・田中由美子(16)、渡辺悟・佐野和子・三好資子ご夫妻(20)、花田幸久(21)文子(23)ご夫妻<名古屋>、大浦綾子・大浜緑・木山洋子・鶴羽孝子(22)、小松久美子・橘千里(ご友人1名)・西村充子・山口紀子(23)、瀬戸ロニ三子(24)、吉城多恵(30)、宍道弘志ご夫妻(31)、<ゲスト>楠本範子(ご友人1名)

■2018(平成30)年度 役員会

日時/平成30年1月27日(土)

会場/中央電気倶楽部

会則第8条に則り役員会を開催し、2017年度の事業、収支状況の報告、2018年度の事業方針についての意見交換をおこないました。

本年度は設立60周年の記念の年であることから、役員一同、心も新たに充実した一年にしようと誓い合うとともに、それぞれ新年の抱負を語り合って懇親を深めました。



◆参加役員は下記の20名(敬称略)

[常任顧問] 山本雅昭(7)、押田良樹(11) [会長] 松本耕司(16) [副会長] 梅木隆志(16)、渡辺悟、三好資子(20) [監事] 鶴羽孝子(22) [常任幹事] 金坂喜好(15)、土田和男(16)、岡久夫(17)、小田一美(18)、岩田一志(19)、山崎麻里子(20)、宍道弘志(31)、富岡幸子(35) [幹事] 田村稔久(6)、萩野貫悟(12)、池田喜美代(19)、大浦綾子(22)、千葉潮(30理9)

（同期会は双松会の“核”となる集まりです。双松会総会の個別テーブルも利用して、ミニ同期会を開催ください。）

■ 16期（昭和40年卒）近畿同期会

日時／平成29年6月4日（日）

会場／がんこ曾根崎本店

報告者／梅木隆志（幹事）

昨年は松江で全体の古稀祝&卒業50周年の会が開かれ、近畿同期会は休みとしましたので2年ぶりの開催となりました。

松江一中の同期会が同日松江で開催されるなどで、出席者は下記の10名でしたが、いずれも意気軒高、「朋有り遠方より来る・・」の心境を味わいました。

まだまだ、たかが？70歳過ぎ。80、いや90歳まで元気で会い続けようと、二次会場まで誰ひとりつぶれず、頑張った次第です。



◆参加者は下記の10名（敬称略）

（前列左より）三成宏二、森光雄、荻田（竹内）治、松本耕司（後列左より）井上伸久、梅木隆志、三吉孜、土田和男、坪倉司郎、森藤哲章

■（予告）17期（昭和41年卒）関西同窓会

報告者／岡久夫

昨年は松江で「17期古希の会」が実施されましたが、今年は個別にもご案内したとおり、下記にて関西同窓会を開催します。

①期日：平成30年5月26日（土）16時開始

②会場：柏木さんのお店「しゃぶbar 柏木」吹田市山田南45-15（06-6878-7102）

③今回のイベント：サクスのミニライブを予定
旧交を温め、楽しい時間が過ごせるよう多数のご参加をお願いします。

※お問い合わせ：岡久夫まで（090-7111-8391）

又、近畿双松会は、今年予定の設立60周年の記念総会で、空くじ無しの大福引大会も実施されると聞いていますので、そこでもミニ同期会を賑やかに起こないましょう。宜しくをお願いします。

■ 18期（昭和42年卒）近畿地区同期会

日時／平成29年7月9日（日）

会場／中華料理「愛蓮」（塚口店）

報告者／小田一美

皆さん今日は。昨年も18期近畿地区同期会を開催しました。早いもので4回目の開催となりました。

最初のきっかけは、私がかたまたま近畿双松会の18期幹事になり、近畿地区で同期会が開催されていないことを知りました。そこで一部有志に声を掛けたところ、世代臭のする「6人のおっさん」が集合。50年の歳月を超え一瞬にして北高時代に戻り、大いに盛り上がり（すぎ）ました。以降毎年開催しています。

みんな身体のあちこちはいたんでいますが、口だけは絶好調。喋って、笑って、食べて、飲んで、美しい10代にどっぷりつかり、顎がだるくなっと思ったら4時間が経過していました。

次回は今年の7月頃に開催したいと思っています。乞うご期待。

一人でも多くの同期の仲間が増えれば嬉しく思います。楽しい事請け合いです。青春時代がよみがえります。人の輪が広がります。皆さんの参加をお待ちしています。

追伸 18期全体の古希同窓会が昨年10月21日（土）に松江で開催され、126名（うち関西から13名）が参加し大盛会でした。



◆参加者は下記の10名（敬称略）

（写真左より）小笹誠二、太田善博、小田一美、森山和夫、桑原勇、大堀愛子（引野）、小川美智子（岸）、岩本光義、石賀誠一郎、北村白雄（森）

■ 22期（昭和46年卒）
関西同窓会「関東幹事歓迎会」

日時／平成29年2月18日（土）

会場／西天満「千代里」

報告者／内藤善夫

首都圏・近畿圏、それぞれに生活基盤があり、なかなか交流の機会がなかった我々にとって、今回の東京世話人／矢田修治さんが、「近畿安来会」出席という来阪機会に、関西組8名（男6・女2）の有志が駆けつけたことは、今後の「22期同期会」として、大変意義深い「きっかけ」となりました。

帰京時刻までの限られた宴席でしたが、鶴羽さんの安来節、倉橋君のドジョウすくいが飛び出し、大いに盛り上がり、新大阪駅の“万歳での見送り”まで楽しいひと時を過ごしました。

還暦を過ぎ、会社勤め、子育てを終え、孫の世話等に忙しい我々にとって、今後の“東西交流”は、ぜ



ひ叶えたい願望です。今回、「東西共有ホームページ」まで進展したことを手始めに、この交流パイプを、相互の会合出席で、徐々に太くして、これからも再会の“楽しいひと時”を持ち、少しずつ「齢」を重ねていきたいと思っています。

⇒S46年卒同窓会（関西・東京）

ホームページ <http://tsuruha.net/kitako/>

◆参加者は下記の9名（敬称略）

石川章、石橋善和、内村昭、倉橋勉、永瀬光一郎、大浦綾子、鶴羽孝子（石橋）、内藤善夫、矢田修治（東京）

■ 24（理3）期（昭和48年卒）
第2回近畿同窓会

日時／平成29年7月16日（日）

会場／がんこ曾根崎本店

報告者／吉城聖顕

昨年10月に近畿双松会松本会長から“20期代、集まれ”とお声かけいただいて同期会を行ったところ、大変楽しく、来年度も是非にこのことでしたので、暑気払いを兼ねて第2回目を開催しました。（今回は松本会長を呼び出しました。）



去年のぎこちなさに比べれば、今年はお互いの距離もグッと縮まり、更に仲間意識が深まった次第です。

さて、第3回目はどうなるでしょう。楽しみです。ご都合がつかなかった皆さんも、次回は是非ご参加ください。

◆参加者は下記の9名(敬称略)

糸原直彦(松江から)、岩間令道(理)、吉城聖顕、徳田完二、大志野喜世子(隠木)、小川ひとみ(堀江)、河村敦子(橋本)、瀬戸口二三子(三隅)、吉賀由紀子(古川)

■(番外・同期協力編)24(理3)期 「加西市高齢者中央かしの木学園」講演会

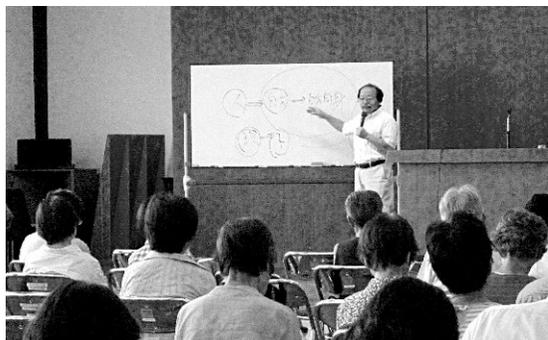
(編集注)兵庫県加西市で「かしの木学園」はいわゆる高齢者大学の位置づけですが、その中で小川ひとみさん(24)は企画、講師依頼、講座司会とフル回転の日々をお過ごしです。そして、人選に困っていたある講演会の講師を、同期会での再会から徳田完二教授に頼むことができておおいに助かった、という心弾む報告をいただきましたので下記にご紹介します。同期会にはこういう素晴らしい副産物もあるんですね。

日時/平成29年8月8日(火)

場所/加西市中央公民館

報告者/小川ひとみ

台風が過ぎ去った翌日、北高同期で立命館大学大学院教授、徳田完二氏による講演会が行われました。『日常生活に生かすカウンセリング入門』～話すこと・聴くこと・泣くこと・笑うこと～と題して、70名の学園生の前でお話をさせていただきました。



実は昨年秋の同期会で、「誰か高齢者対象に楽しく為になる講演をしてくれる人いますか!!」と聞いたところ、手をあげてくれたのが徳田さんでした。私は、仕事で色々な分野の講師を探していたのでとても助かりました。

講演の後は、当日聞きに来てくれた同じく同期の兵庫教育大学教授の吉岡秀文さんと3人でプチ同期会。酒蔵を改造した日本酒の美味しい店で話に花を咲かせました。来年は吉岡教授が講演会をしてくださる予定(※)です。(やったー!)

(※)その後の報告

今年8月に予定のこの吉岡さんの講演は話が大きくなり、加西市と兵庫教育大学の社会連携事業として、一般公開で行うことになりました。演題は『100歳まで健幸に生きよう!』です。加西市は歩くまちづくり事業を行っていて、昨年度と今年度は歩くことで健幸ポイントが貯まります(ポイントは金券になります)。(やったー! 同期万歳!!)

■25(理4)期(昭和49年卒) 近畿双松会”次代につなぐ”同期会開催支援

(編集注)近畿双松会では、来年設立60周年を迎え、いよいよ北高20期代の方々が運営のメインになっていくことから、「順次、各期の同期会開催を支援」することを重要な取り組みとしています。

日時/平成29年10月15日(日)

会場/がんこ 曾根崎本店

報告者/近畿双松会事務局

初めてのご案内であったのにもかかわらず、当日は8名の方がお集まりいただき、楽しい語らいが続きました。



終了後、皆様からは「大変よかった」というメールをいただきました。次回から一年一年、同期の輪

がにぎやかに広がっていくことを心より念じております。

◆参加者は下記の8名（敬称略）

小林宏、斉藤喜久雄、佐藤淳、高田史朗、増本登、播本信子（多胡）、白根知子（西俣）、浅田淳子（中山）

■27（理6）期（昭和51年卒）
近畿双松会“次代につなぐ”同期会開催支援

（編集注）趣旨は25（理4）期に同じ

日時／平成29年10月22日（日）

会場／がんこ 曾根崎本店

報告者／新宮富美子

還暦を迎えることになった今年、松江でも還暦同窓会がひらかれたのを機会に、近畿双松会事務局からの要請もあって近畿でも集まれたらいいなと思ったのがすべての始まりでした。

新宮、松田、木田の女性三人でスタートし、三原均さんにも入ってもらい、4人が呼びかけ人となって声かけをした結果、当日は台風襲来の直前という中で、見事に予定通り13人が集まり、しかも本当に台風がひどくなる前に全員無事帰宅という「劇的な嵐の中の船出」となりました。



60歳は（特に男性は）まだ全員が仕事をしているというのが実態ですが、高校時代をすぐに思い出し、楽しい時間を過ごしました。高3になってから転校をしてきた女性が「当時もそう思ったけれど、こうして参加できる機会もあって、北高はとてもフトコロの深い学校だと思う」と話されていたのが印象的でした。

思い返しても、真に楽しい会でした。次回は更に参加者が増えればと願っています。ご同席いただき、盛り上げていただいた松本会長、渡辺事務局長には感謝を申し上げます。

◆参加者は下記の13名（敬称略）

陶山浩嗣、高浜賢二、多久和令一、野口博也、三浦清、三原均、吉田勲、酒見雅子（荻野）、新宮富美子（新川）、成瀬満弓（新宮）、松田稚子（永島）、木田京子（能海）、井端啓子（森林）

■31（理10）期（昭和55年卒）
松江北高@関西同窓会（第2回）

日時／平成30年1月27日（土）

会場／梅田ライム

報告者／宍道弘志

関西地区の同期会は昨年2月に初めて開催し、今回が2回目となります。これまで話題になりながらも、なかなか実現できなかった同期会が、昨年始めて実現し、今回2回目を開催できたのも、幹事の池田（赤木）さん、安井さんのおかげです。

今回は松江と東京からも参加がありました。これを定例化して、今後も毎年続けていけるようにと思っています。



◆参加者は下記の12名（敬称略）

足立教好、池田雅一、池田洋子（赤木）、喜多村啓子（風呂）＜東京＞、宍道弘志、戸谷徳寿、中倉行彦、広瀬篤、藤原智子（加藤）、三上智子（今田）＜松江＞、矢倉和恵（玄行）、安井裕彦

会員近況報告

この近況報告は、昨年の総会の出欠回答時(9～11月)を中心として、昨年の会報発行以降にお寄せいただいた近況を加えて構成しました。半年前後の時差がありますこと、ご承知おきください。

中63(昭18卒)肥塚隆正

最近、歩くことが段々むつかしくなりましたので、趣味の方も控えております。年一回の会合には是非出席したいと思っておりますが残念です。

中66(昭20卒)熊野禮助

現在89歳、視力がなく不自由しておりますが、何とか一人で生活しております。(家内は特養ホーム)いつもお世話様で感謝しております。

中68(昭23卒)青戸元也

今や80歳台も半ばを過ぎ、昔を偲ぶ事頻りです。

中68(昭23卒)荒銀昌治

近所のスポーツクラブで一日おきの筋トレと読書を楽しんでいますが、つい先日は、同じ本を三度も借りてきたことに読み進んでいるうちにやっと気持ち、ショックでした。

中69(昭24卒)杵築武彦

老々介後の日々を送り、デイサービスを利用しています。

高1(昭25卒)荊田運三郎

年齢相応に過ごしています。

高2(昭26卒)成合茂博

体力が衰えても、何、気力だけは・・・と言っていたのが～～、近頃は・・・

高2(昭26卒)兼清久子

古い話で恐縮ですが、恩師の故内藤美城男先生(H16.12.22ご逝去)が、近畿双松会報で戦後の連合軍占領下で学制改革がなされ、中等教育の教科書が次々と改訂された中で、大事なものを守り通し残してこられた出版社「啓林館」の仕事の紹介をされていきました。もう一度読みたいと思いますのでコピー

をいただければ幸いです。

(編集注)押田良樹常任顧問(11)が平成2年度号から発見いただきましたので、兼清様にお届けしました。

高4(昭28卒)藤原小夜子

当日、老人会の行事もあり欠席しますが、毎日大忙しです。

例えば9月であれば、3日：防災行事(10～12時)、4日：防災行事の結果、街灯にからまっている草のつるについて対応(市が処理)、5日：太極拳のあと公園の清掃、6日：体育祭の委員探し、回覧配布、7日：雨でジッとしている(ペットボトルキャップを集めているので、その整理)、8日：マンションの資源回収(業者が集めますけど手伝います)、9日：緑道美化清掃(7;45～10時)

親からこれだけできる体力を頂いて嬉しいです。

高5(昭29卒)板垣衛武

ご案内いただき、有難うございます。リタイアするまで、海外旅行は私を除く家族を優先させていました。やっと自由になると遅れを取り戻そうと、もっぱらヨーロッパとアメリカを回りました。

今は時間が有っても体力がなくなり、BS放送で旅を回顧して楽しんでいます。

高5(昭29卒)寺本尚由

11月17日18日は松江。島根ゴルフ倶楽部でゴルフをする予定。

高5(昭29卒)酒井順子

ご盛会を祈っています。

高5(昭29卒)小さい姉妹 ヴェロニカ恵子(野津恵子)

松本会長様にどうぞよろしくお伝え下さいませ。祈りのうちに、よい集まりでありますように。

会員近況報告

高6(昭30卒)森岡敏真

1年に1回、この懇親会にしか出席できませんが、今年は腰痛(脊椎管狭窄症)がひどく、歩けるかどうか心配しています。皆様のお顔を見に、何とかして行くつもりでいます。

2~3ヶ月に一回、車で松江に帰っていますが、いつまで出来るか、の年齢になりました。

高6(昭30卒)石原綾子

2年前には堺まで「歴史ハイキング」にお出でいただき、有難うございました。行事が重なってしまい、今年は失礼させていただきます。盛會を祈っています。

高6(昭30卒)西田恭子

いつもご親切に同窓会の通知を頂きまして有難うございます。後期高齢者ともなれば、気力も体力も衰えまして欠席させていただきます。

高7(昭31卒)佐藤栄治

体調不良のため、病院通いの毎日です。いつも欠席で申し訳ありません！

高7(昭31卒)玉井洋子

昨年11月、1時間ほどの演奏とトークを頼まれたので、「若くて、上手で、美しいヴァイオリニストがたくさんおられるので、紹介しましょう」と申しましたら、「大丈夫です。50周年の記念の催しですから」ですって！！

高9(昭33卒)岩成哲男(松江市)

なんとか元気ですごしています。

高9(昭33卒)澄川光成

ご盛會を祈り上げます。

高9(昭33卒)田中英明

家庭菜園や月数回の植物観察ハイキングなどで過しています。

高9(昭33卒)伴稔也

地域のボランティア活動等で忙しくしています。皆様によろしくお伝え下さい。

高9(昭33卒)真野透

喜寿の峠を何とか通過しましたが、健康維持の為、ウォーキングを続けております。

高9(昭33卒)安部裕子

いつもご案内ありがとうございます。地元、市の体育協会の二つの連盟に関わっていて、秋は行事が重なることが多くて残念です。

一年一年、会いたい人に会える機会が減るのにも思いながら、ご盛會を祈り、今年も失礼いたします。

高9(昭33卒)篠田いづみ

体調に自信なく欠席です。ご盛會を祈ります。

高10(昭34卒)佐和田丸

昨年7月、大阪市内のホテルで、島根県遣島使会 in大阪、があり、出席しました。ちょうど、隣のホテルで、終活セミナーをやっており、開始まで時間がありましたので覗いてみました。

人生終活に関するすべてのことをやっていました。死と向き合う入棺体験コーナーもあり、一度経験しておいても良いかなとの思いから体験してきました。銀色の布で綺麗なおおわれた棺桶の内部は、快適そのものでした。人間をやってきて、77年、このまま、ご浄土へ行かして貰ってもよいかなとうとうとしておりました。が、突然蓋をあけられ、現世にひきもどされました。ああ・・・残念。

遺影撮影コーナーもありました。カメラマンからこれまでの人生で一番よい笑顔をしてくださいといわれ、出来上がったのがこの写真です。果たしてそうなるのでしょうか。



終活セミナーはあちこちで開かれています。お迎えが近いと思われる御仁はいちど覗いて見られるこ

とをお勧めしておきます。

HP <http://simane.do47.net/kadoya.html>

.....

高10 (昭34卒) 清水義男

欠席をさせていただきます。御盛会をお祈りいたします。

.....

高10 (昭34卒) 清水小枝子

9月20日、松江のサンラポーむらくもで、10期生の喜寿を祝う同期会があり帰省してきました。

出席者105名の内、4割が県外からの出席者とのこと。前回3年前よりも出席者が増えたとのことでしたが、物故者も増え、卒業以来100名を超えた・・との報告には胸がつまりました。健康に感謝し、良い日々を重ねなくてはと、思ったことでした。

ご盛会を祈り上げております。

.....

高11 (昭35卒) 太田厚

菜園での作業の傍ら、高齢者大学に顔を出し、幼稚園や小学校でのボランティアをしながらボケ防止に努めています。

.....

高11 (昭35卒) 小久江良雄

元気で、毎日を送っています。

.....

高11 (昭35卒) 河野克彬

未だに診療に携わっています。

.....

高11 (昭35卒) 高本紘史 (松江市)

毎回ご連絡をいただき有難うございます。松江へ移って14年、今ではすっかり松江人・・。

そして、いつも元気に飛び跳ねています。今年のボートのシーズンも終わり、これからは秋のスポーツを楽しもうと思っています。押田氏にはいつもお世話になり感謝しています。

.....

高12 (昭36卒) 福間昭光

74歳と8ヶ月になり、まるで“魚の干物”のような身体になりましたが、大山中腹に20年前につくったCottageと大阪を行ったり来たりの生活を楽しんで

おります。

毎年、松江(玉湯)へも50回ぐらい帰って懐かしんでおります。毎回欠席ですみません。

.....

高12 (昭36卒) 山本輝夫

(1) 9/9日本人初の100m「10秒の壁を破り9秒98」の当地洛南高校出身の桐生祥秀選手(東洋大)の快挙に万歳!すると同時に、彼のコーチは我が島根のかつて短距離界のトップアスリート土江寛裕氏(出雲高校)と知り、喜びも3倍! 東京五輪に向けてさらなる大飛躍を祈念。

(2) 天皇皇后両陛下の初孫、眞子さまご婚約の慶事は、日本中に明るい話題を。記者会見ではお互いを「月と太陽」に例え、謙虚でさわやかなお似合いのカップルに深い感銘を。

実は岡崎(愛知)のサッカー一筋の孫(インターハイ愛知代表、ハイライトの正月高校選手権をめざし予選を順調に勝ち進み、決勝で0対1で惜敗)は、翌日(11/20)から受験モードに切り換え、3ヶ月の突貫工事で希望の一橋(経済)に合格し思わずガッツポーズ。新郎の小室圭さんも一橋の院生で学ばれている由に少々ご縁も感じたり・・。

(3) 英、オックスフォード大医学研究者として10年勤務の三男が5年ぶりに孫3人を連れて一時帰国。長女はこのまま国内食品メーカーに10/7就職。長男は英に帰国4日後、志望大学に合格のメールを着信して安堵。下の子は中3につき、7~8年先きかとタメ息。否と、気合いを入れ直して10年先を見据え、ジム通いにも励む。

光輝(後期) 高齢者のジイさま、自分ファーストで、**だんだん。**

.....

高13 (昭37卒) 安部正毅

一般社団法人日本繊維技術士センターに勤務、業界技術者に技術アドバイス・コンサルタントを行う。

地元では地区老人会(シニア)グループ活動を行い、地域の活性化をすすめている。

会員近況報告

高13(昭37卒)岡崎公典

自宅にて療養中です。

高13(昭37卒)桑原洋史

今年、「てるみくらぶ」のモロッコツアーに応募しました。6泊8日で12万円余り、格安でした。でもそんな甘い話はありません。結局会社が倒産し、ツアーはダメになりました。

くやしいので、もう少し安全で(?)もう少し高くてもよいツアーに応募しました。

その後、イロイロありました。武陵源、ナイル河クルージング、ニュージーランド・・・でも結局、シンガポールになりました。パンフレットと頭の中であっちこっち旅行が出来ました。

高13(昭37卒)山下俱子

変わりなく過ごしております。今年も出席させていただきます。よろしくお願いたします。

高14(昭38卒)内田一三夫

当日予定があり、残念ながら欠席です。盛会を祈ります。

高14(昭38卒)加藤巡一

ボランティア活動で、灘区保護司会会長、灘地区青少年育成協議会会長、実験教室開講等、日々忙しくしております。

高14(昭38卒)川上克彦

昨年5月に24年過ごした九州(小倉～大分)から戻りました。7月より、箕面市立介護老人保健施設管理者をしています。

高14(昭38卒)小泉勝是

縁があって通い始めた科学実験とおもちゃづくり教室、もう4年目になりました。

この頃は学んだことを活かして、子どもイベントのボランティア活動にも出かけています。

高14(昭38卒)小松三樹

毎日、なんとなく過ごしています。

高14(昭38卒)富永寿郎

現在、車イスで移動のため一人で参加は無理です。申し訳ありませんが今回も欠席させていただきます。

高14(昭38卒)三好洋二

同級生の川上克彦君が九州から大阪に帰ってきました。この会に参加できるようご連絡ください。

高14(昭38卒)森山國久

御盛会を祈念します。

高15(昭39卒)真庭 功

左手が不自由になりました。

総会当日は他にスケジュールがありますので欠席いたします。

高16(昭40卒)佐々木康雄

いつもこの日は他の行事と重なります。皆様によりよくお伝えください!

高16(昭40卒)松本耕司

昨年の松江での16期古稀同窓会の時、同じテーブルに座った三年次同ルームの善男善女を見て思いつき、又、ルームで集まれたらいいね、と声をかけたらこれが大当たり!今年のお盆の後20名も集まりました。進路が分かれた多感な高三時をともに過ごしたメンバーの集まりは、実に味わい深いものでした。大半が松江在住、帰松の楽しみが一つ増えました。

そこへ、来年は本庄中学同期の連中が大挙して大阪に一泊二日で押しかけて来るとか。宿舍の手配や小旗を持ってハルカスや心齋橋を案内する我が姿を想像して、今からドキドキしています。恩返し、です。

高16(昭40卒)三吉 孜

70歳の節目を越えましたが、生活はこれまでの延長線上で暮らしています。

高16(昭40卒)森藤哲章

奈良県内を走る近鉄大阪線の榛原駅から南へ10km程のところにある辻村病院で内科医として常勤で勤めております。

安来市広瀬の実家には、毎週のように週末に帰省しております。

高16(昭40卒)伊藤育子

家を空けることがむずかしい家庭環境になりましたので、欠席させていただきます。

高16(昭40卒)西村幸子

毎回、お世話役の皆様にご感謝しております。ご盛會をお祈りします。

高17(昭41卒)浅津民夫

まだ何とか勤務をしております。あちこちガタが来ています。

高17(昭41卒)後藤研三

当日、所用にて欠席させていただきます。皆様によりしくお伝えください。

高17(昭41卒)木村成子

ご案内を頂きましたけれど、予定が入っており申し訳ありません。

老人ホーム等のボランティア活動に参加しています。

高18(昭42卒)小田一美

7月9日にミニ同期会を行い、10名の参加者がありました。大いに語り、美しい10代がよみがえりました。

高18(昭42卒)内藤和夫

10月21日に松江で18期の古稀同窓会があり、参加いたしました。120名を越える参加者があり、半世紀ぶりに会う顔もありましたが、すぐに思い出すことができました。

高19(昭43卒)槇原隆

なんとか年金生活を送っております。皆様のご健勝をお祈りします。

高19(昭43卒)吉見正志

いつもお世話様です。

高19(昭43卒)江守久美子

いつもご連絡ありがとうございます。総会の盛會をお祈り申し上げます。

高19(昭43卒)大久保章子

ご案内いただき有難うございます。当方も高齢者ですが、超高齢者(92歳)と同居で、なかなか外出の時間がとれません。

高20(昭44卒)金見幸夫

4月：下咽頭癌発症 5月：手術・腫瘍除去、気管切開、声帯摘出(発音ができません)

城陽市東部コミュニティーセンター館長退任、サンデー毎日、医者通いの日々です。

高20(昭44卒)山崎麻里子

99歳になる父が松江市の高齢者住宅で一人で暮らしています。一人で暮らすことができなくなったら、空き家になっている実家に父を引き取り、最期は家で看取りたいと思うようになってきました。

ケアマネさんや他の方々と相談しながら、いい方法はないか、模索しているところです。

高21(昭45卒)野津一雄

昨年6月に嘱託で65歳まで勤務していた会社も退職いたしました。これまで松江に年に何回も帰省していましたが、やっと仕事や年次休暇、休日の調整をせずに、平日の移動や日程の自由な選定が可能となりました。

今年は8月初旬の松江水郷祭からお盆明けまで松江に滞在でき、実家の片付けや補修をゆっくり行うことができました。今後も宜しく願います。

会員近況報告

高21 (昭45卒) 花田幸久

来春の宝塚歌劇鑑賞を楽しみにしております。今回、所用の為、欠席します。幹事の皆様、ご苦労様です。

高22 (昭46卒) 石川 章

のんびりと、老後生活中です。

高22 (昭46卒) 大浦綾子

皆様にお会いできるのを楽しみに参ります。

高22 (昭46卒) 大濱 緑

どうしてもはずすことができない用事があり、残念ですが、今回は欠席します。

高22 (昭46卒) 佐藤松子

5年前に定年退職してからは、畑仕事に精を出しております。

高22 (昭46卒) 西村紀子

月日の経過とともに、ふるさとを懐かしく思うようになりました。皆様にお目にかかれるのを楽しみにいたしております。役員の皆様、ありがとうございます。

高23 (昭47卒) 忠井俊明

医師として認知症の外来をしています。

高23 (昭47卒) 松本 潤

義兄の三回忌に重なり、残念ながら欠席とさせていただきます。

高23 (昭47卒) 松本幸子

ご案内、有難うございます。都合がつかず欠席させていただきます。

高24 (昭48卒) 伊藤澄夫

高校3年次に転校してきて2ルームに在籍していました。

現在は大学や専門学校の講師や会社の顧問をしています。バスケットもまだ続けており、ミニバスの

リーダーをしています。時々、松江で開催されている同期の飲み会に参加しています。

高24 (昭48卒) 木村 悟

毎日が日曜日です。身体の老化防止のため、ジム通いの毎日です。

高24 (昭48卒) 水野順子

松本会長のお蔭(北高野球部大阪遠征の応援)で、懐かしい野球部OBの方々に45年ぶりにお目にかかることができました。ありがとうございました。

野球部OB会、松江でも盛況のようです。

高24理3 (昭48卒) 泉 紳一郎

お世話になります。

高24理3 (昭48卒) 湯原 勉

当日、行楽予定につき、失礼させていただきます。

高25 (昭49卒) 佐藤 淳

二人の子供も巣立ち、暫く“空きの巣症候群”だった家内も落ち着き、現在は孫代わりの犬三頭と一緒に、二人暮らしをしています。

高25 (昭49卒) 畠山 秀人

昨年退職し、1年半経過、のんびりと自由人をやっています。少しボーッとし過ぎて来ましたので、このままボケないように気をつけたいと思っています。頼みは、今年生まれた初孫。「育爺」の役割で活躍しようと考えています。

高25 (昭49卒) 阪口 圭子

総合商社を2年半前に定年退職し、のんびり静かな毎日を送っています。

高26 (昭50卒) 川谷 徳彦

現在、大阪府立泉北高等学校に再任用フルタイムで勤務しています。

高26 (昭50卒) 福富由美子

いつもご案内ありがとうございます。今年は所用があり、欠席させていただきますが、また機会があれば参加させていただきたいと思います。

英語で外国人相手の通訳ガイドをしています。

高27 (昭51卒) 陶山浩嗣

60歳にて定年退職後、継続勤務中です。

高27 (昭51卒) 野口博也

北高卒業後、大阪大学へ進学し、剣道を続けております。今回も当日、関西学生剣道大会の審判の為、出席できません。今後ともよろしく願います。サントリーで酒の営業をしております。

高27 (昭51卒) 三浦清

スケジュール調整が出来ず、出席できません。申し訳ありません。皆様に宜しくお伝えください。

高28 (昭52卒) 赤井真一郎

大阪単身赴任8年目を楽しんでおります。

高29 (昭53卒) 太田春樹

皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

高29 (昭53卒) 小玉清二

2016年12月に転勤しました。現在は中国広東省中山市に単身赴任しています。

高29 (昭53卒) 達山 暢 (松江市)

「しまねUターン | ターンフェア2017東京」の当日で、残念ながら出席できません。

皆様の中で、あるいはお知り合いの方で島根への移住に関心のある方は「ふるさと島根定住財団」へご相談ください。

高30 (昭54卒) 杉原伸治 (松江市)

転勤族の宿命、今は鳥取で生活しています。

高30理9 (昭54卒) 千葉 潮

昨年より、郷里の安来市加納美術館を指定管理する加納美術振興財団の理事となりました。

帰省される際は、ぜひ美術館にご来館くださいね。

高32 (昭56卒) 藤本斉子

仕事の都合で、欠席いたします。

高33 (昭57卒) 小坂美砂子

引越しをして、現在、東京在住となりました。お世話になりました。

高35 (昭59卒) 吉野 潔

大阪で産婦人科医として元気でやっています。今回は連絡いただき有難うございます。残念ながら予定が合わず欠席させていただきます。

高36 (昭60卒) 足立文江

長男の結婚式の為、欠席いたします。

高64理43 (平25卒) 戸田香菜子

今年から大阪で助産師として就職し、毎日があっという間です。時々、島根に帰ると、ホッとします。

高65 (平26卒) 山根一真

現在、関西学院・大学院法学研究科一年生。地方・国家公務員への就職に向けて勉強中。業界団体、一般社団法人、特殊法人への就職も検討中。

高68 (平29卒) 関根由真

先日、課外活動で国際交流イベントの企画・運営をしました。これからは観光ガイドをしたいと思っているため、日々英語の勉強を頑張っています。

「二本松の歴史」

双松会幹事長 金平 憲(16)



赤山の初代の二本松は、旧制松江中学が殿町から赤山に移転する際の明治29年に、旧松江藩家老塩野家から頂きました。以来、松江中学から松江北高に至るまで「質実剛健」の校風を象徴し、赤山健児に慕われてきましたが(百年史P 341参照)、西側(左)の「ま直(ス)ぐなる松」が松くい虫の被害に遭い、昭和62年12月10日、双松会約300人、在校生約1,200人が参加して、「訣別・新生式」を行い、二本松の継承を誓いあいました。

当時の柴田午郎会長(中44)、目次健一校長(中66)の式辞、藤脇久稔氏(2)の訣別・新生の詩・歌「木霊(コダマ)よ」は、百二十周年史(P 7～12)に詳しく掲載されています。

二代目として新しく育てられることになった二本松の幼木は、西側の松として今も健在です。

そして14年後の平成13年に、遂に残る東側(右)の「傾(カブ)きたる松」も同じ被害に遭い(樹齢は150～200年と推測)、再び「二本松訣別全国大会」として、10月24日に訣別式、27日に斧入れ式を行いました。

訣別式での鞍嶋弘明校長の経過報告、井戸内正会長(中65)、兼折博歴代校長代表(中52)の式辞、藤脇久稔旧職員(2)の式詩「木霊よ」朗誦、生徒代表の双松継承のことば、また斧入れ式の詳細は百三十周年史(P 9～14)に掲載されています。

なお、この伐採された初代の松の一部は永久加工して、校舎と起雲館の玄関に保存されています。

平成22年には、学校地内で育成していた実生の二世を台上に移植しましたが、翌年末からの大雪で東側の一本の先が折れ、さらに松くい虫に入られ、やむなく平成24年12月1日に庄司肇会長(11)他7人が立会って伐採しました。

これを受け、平成25年には二本松を復活すべく「新生松の会」を中心にして実生の三代目候補を選定し、平成26年4月12日に双松会主催の植樹祭を行いました。植樹祭は松本幹彦顧問(1)はじめ10名が参加して田原神社の藤脇兼三宮司により斎行し、140万円をかけて台上も整備して、初代の姿に似るように植樹をしました。詳細は百四十周年史(P 4～5)に掲載されています。

同時に募集した『北高の緑を守る基金』には全国の双松会員から600万円を超える浄財が寄せられました。

双松の二本の若木が台上から生徒たちのいきいきとした活動を見守る姿を実現でき、大変喜んだ次第でした。



H 26年4月 植樹祭後の双松(左：二代目、右：三代目)

しかし、その三代目の東側の松が昨年6月頃から様子がおかしくなり、またもや松くい虫の被害に遭ったことがわかり、やむなく小山理久校長(28)他役員9名が立会い、10月10日に伐採(樹齢40年)しました。今後のことは、詳しく土壌の検査等も行った上で、計画を決めたいと考えています。

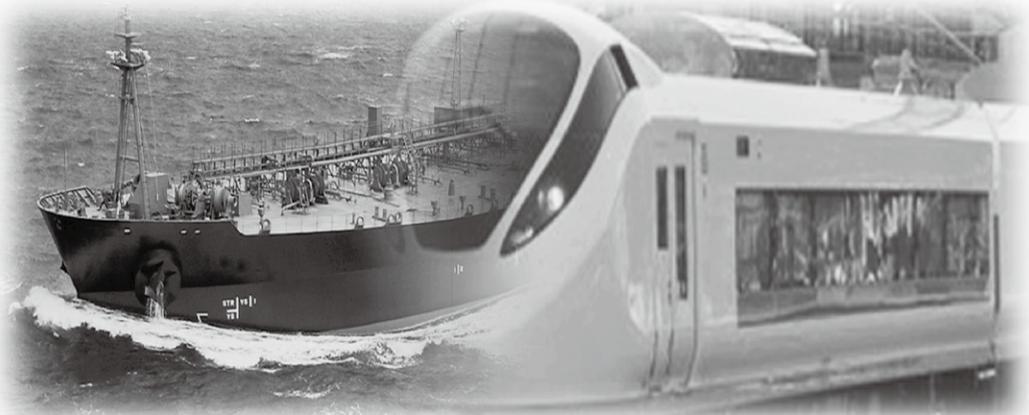
(⇒関連記事をP 5、P 19に掲載)

塩野家は二本松の保存を託して赤山の私有地を寄付されたという故事に加え、母校の象徴として永く学校と生徒を見守ってきた二本松は「北高の宝」であります。

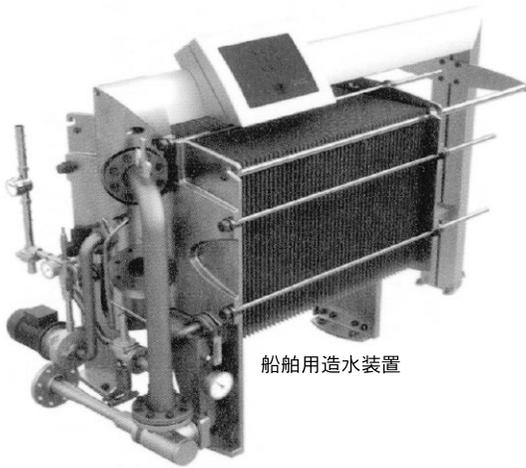
受難と復活の繰り返しのなかで、これを守り続けることは簡単なことではありませんが、何としても永く後世に伝えていきたいと考えておりますので、双松会員の皆様には今後ともご支援賜りますようお願いいたします。

平成30年2月11日

《鉄道車両、船舶、産業機器、ソリューション》



イメージ画像



船舶用造水装置



LEDリモコン
サーチライト



鉄道車両運転台

株式会社
トヨコーポレーション
TOYO & ENGINEERING CORP.

取締役社長 山本 雅昭

本社/〒550-0002 大阪市西区江戸堀1-21-35 Tel.06-6443-2061 Fax.06-6443-9736
東京支店・豊中工場

「松江を知りたい」

押田 良樹(11)



「ふるさとへ 廻る六部は 気の弱り」という古川柳がある。藤沢周平のエッセイ集のタイトルにも使われているので、ご存知の方も多いと思う。

私は至って信心が薄く、お遍路などとは縁のない人間であるが、この句の作者の心境はよく理解できる。

老境に入ってから、何故か松江訛りがたまらなく懐かしい。家にいると、よく投資などの勧誘の電話がある。そういう時は話も聞かずにつれなく即断するのが常だが、ある時、かけてきた若い男性が懐かしい松江の訛りで話しかけてきた。つつい話を聞いたうえ、「今は余裕がないから期待に添えないけど、まあしっかり頑張りなさい」と激励してしまった。

またある時は、近くの散歩コースである万博公園の日本庭園に向かう道で、向こうからくる3人連れのおばちゃんの会話が耳に入った。「まくれる、って言うがぁ。何と懐かしい響きだろう、私は石川啄木のように聴きに行くどころか、その会話に入り込んで「ぼいちゃげる、も言うがぁ」と話しかけていた。

最近「おじさんのおばさん化」がいわゆる。私の場合は「じいさんのばあさん化」というべきかもしれないが、図らずも今どきの風潮を自ら実践していた。

そして、当初戸惑いを見せていたおばちゃんたちは、当方を人畜無害と受け止めてくれたらしく、そのあとは松江の話で、4人で大いに盛り上がったことは言うまでもない。

松江の郊外、大庭の地で元気に一人暮らしを続けていた母が、90の半ばも過ぎ、さすがに日常生活が万事心許なくなってきたのは、私が古希を前にした頃だった。きょうだい5人が集まって相談の結果、

それぞれの事情に応じて、分担して介護をすることになり、私も月一度の割合で1週間松江暮らしをすることになった。介護と言っても、当初は宿直当番のようなものだった。そのうち介護らしきことも必要になってきたが、隔日のデイサービスの日は日中がフリータイムになる。それまで、訪れることがなかった松江のあちこちへ足を延ばす機会ができた。

私は、父の任地に従って、静岡、京都、栃木で幼年時代を過ごし、小学校4年になると松江に移り住んだ。小、中、高各3年の計9年を松江で過ごしたことになる。従って、松江は「生まれ故郷」とは言えず、少年時代を過ごした地である。しかし、「お国は」と問われれば、当然「松江です」と答える。

松江で過ごした9年間の住まいは上乃木だった。上乃木三叉路から西に向かって少し行った右手の小高い丘の上に、新設の島根農科大学の官舎が21軒建った。その通りは現在「けやき通り」と名付けられ、すっかりしゃれた雰囲気になっているが、当時は想像もつかないくらい、人家もまばらなところで、街中は遠かった。

松高の川津の校舎に通うようになって、初めて「橋北」を知るようになったが、殿町や北堀など松江の古い雰囲気を残す地域とはほとんど無縁で過ごした。

帰省のたび、橋北の街を歩き回るようになり、やっと松江についていろいろと知ることになった。そして、それまで自分がいかに松江のことを知らなかったかを思い知らされた。

その頃、私はある人物についての調査に熱を入れていた。それは老後の張り合いとなって現在も続いている。

その人物とは、ノーベル賞作家川端康成の茨木中学時代の恩師倉崎仁一郎である。

倉崎は明治19年に松江中学を卒業した母校の大先輩だった。川端康成の研究者である熊本の尚綱(しょうけい)大学の宮崎尚子助教との偶然の出会いから、倉崎のことを知った。



倉崎仁一郎

川端をはじめ全校生徒の尊敬を集めていた英語教師倉崎仁一郎は、川端が卒業を間近に控えていた5年級の時急逝する。生徒の発案で執り行われた生徒葬は、当時美談として茨木の街で評判になった。感銘を受けた川端はその印象を雑誌「団欒」に「生徒の肩に柩を載せて」という題名で投稿し掲載された。川端が少年時代から目指していた作家としての原点ともいうべき作品だった。

茨木中学の同窓会である「久敬会」の発行した倉崎の追悼号には、卒業生、在校生、同僚、友人から数多くの追悼文が寄せられ、それらを読むと、倉崎が如何に周囲に敬愛された人格者であったかが分かる。

私は、倉崎の人物に魅せられ、そのすべてを知りたいと思い調査にのめりこんだ。(H25年度近畿双松会設立55周年記念会報に投稿)

倉崎は明治元年北堀の新橋で生まれ、大正6年1月、茨木で没した。今年が生誕150年、没後101年になる。時の流れには抗しがたく手掛かりは少ない。

島根県立図書館の郷土資料室に通って、関連資料を探すうち、倉崎を取り巻く人物にもどんどん関心の輪が広がって行った。

明治12年松江中学同期入学の若槻(奥村)礼次郎(明治13年中退)、岸清一(明治16年卒)をはじめ、実兄の倉崎金之助(明治16年卒)、松江中学教師西田千太郎(明治13年中退)、娘婿の長谷川清治(明治41年卒)、松江中学の名物教師だった山本庫次郎(明治19年卒)、後輩で親しかった伊原青々園(敏郎)(明治21年中退)、倉崎の在校時の校長でのち

佐賀中学の校長になる田所貢、同じく在校時の物理教師でのち茨木中学初代校長となり、倉崎と終生の師弟関係を結ぶ加藤逢吉等々について関連資料を読み漁った。

若槻(奥村)礼次郎、岸清一はあまりに有名であり説明は省略する。

まず、実兄の倉崎金之助は、仁一郎と同じ明治12年に松江中学に入学し、同16年に岸清一などとともに卒業した。尋常小学校の訓導や、私立中学修道館の教師を勤めたのち、松江中学の英語教師に転じた。大正年間に小泉八雲が国内であり知られていない頃に、グリムプセスを副読本にして授業に取り入れるなど先進的な英語授業を行った。

西田千太郎は、小泉八雲が最も信頼を寄せた心友ともいえる存在である。倉崎とも濃い交友があったことは「西田千太郎日記」の記事から想像できる。おそらく西田を介してのことだと思われるが、倉崎と小泉八雲も交流があったことを親族が伝え聞いている。

長谷川清治は倉崎の長女しづの夫である。生家は津田で、やはり松江中学を卒業し大阪高等工業(現大阪大学)へ進んだ。釜石の製鉄所を経て、満鉄に入社し、撫順炭鉱でオイルシェルの画期的な事業化に成功したが不慮の最期を遂げた。

義父である倉崎に劣らぬ人格者で、部下の信望が厚く、死後、関係者により工場内に胸像が建てられるという計画が、「月刊撫順」という雑誌の長谷川の追悼記事に書かれていた。

胸像が本当に建立されたことを知ったのは、茨木高校の資料室の中で調査をしている時だった。初代校長加藤逢吉の遺族から寄贈された柳行李の中にあつたアルバムで、盛大な除幕式の模様を写した写真を発見した。

立派な胸像の写真を目にしたときは、思わず「これだー」と叫んでいた。



長谷川清治胸像

自由投稿「松江を知りたい」

長谷川を主人公とした小説があることを「東京撫順会」の事務局長が教えてくれた。長谷川のオイルシェル事業に関する苦悩と苦闘の物語を、「オイルシェル」という題で小山いと子が書いている。(昭和16年中央公論社)

知る人は少ないが、長谷川清治は誇るべき松江出身の偉人の一人である。

山本庫次郎は倉崎と松江中学の同期生で一番の親友だった。厳しさの中にもユーモアをにじませた熱血授業ぶりによって「やまくらさん」の愛称で長年親しまれた母校の名物教師だった。岸清一育英会の事業や八雲会の創設にもかかわっている。

偶然のことから松江にお孫さんが住んでいることが分かった。「偶然」というのは、「明治100年島根の百傑」という本に山本庫次郎の項があり、菩提寺が分かったので、松江にいる同期生で倉崎調査の同志石倉昭子さんに心当たりを聞いてみると、なんとその寺の住職は石倉さんの大学時代の同期生だというのである。いつもながら石倉さんの人脈の豊富さには驚くが、倉崎の調査に関しては、このような偶然が数多くあった。

早速住職から連絡を取ってもらい、お孫さんとお会いすることができた。

加藤逢吉のアルバムに貼られていた大正初年頃の山本家の家族写真のコピーをお渡しした。

父君が7,8歳頃のもので、初めて見るものだと喜んでおられた。加藤は松江を去って四半世紀を過ぎても、山本とも交際を続けていたことが分かる。

お孫さんは、幼いころに父君を亡くされていることもあり、倉崎のことで伝え聞いていることはなかったが、間接的にでも倉崎にゆかりの方に会うことができ、倉崎を少し身近に感じる事ができた。

伊原青々園は倉崎より少し年下だが、松江中学在学中から親しく接していた倉崎から文学についての影響を受けていた。松江中学を中退して一高に進んだが学資が足りず一高も中退し、坪内逍遙の知遇を得て、新聞記者を経て演劇評論家、劇作家として名を成した。

早稲田大学図書館には青々園あての膨大な書簡

が所蔵されている。歌舞伎役者などからの多くの書簡の中で、倉崎からの書簡は実に300通近くあり断然多い。それによって、倉崎の文学観や家庭内の悩みなどをうかがい知ることができる。この資料は一般人には公開されていないので、前述の宮崎先生に調査をお願いして一部コピーをいただいている。

宮崎先生は尚綱大学から茨城大学の准教授に転じ、引き続き研究を続けており、情報の交換を続けている。

田所貢は倉崎の松江中学在学時の校長であった。のち東京高等師範学校教諭を経て佐賀中学校長に就任すると、すぐ倉崎を招いた。中学生倉崎の人物を当時から認めていたのであろう。

倉崎は卒業後、母校の助手や高等小学校の訓導を勤めていたが、田所の呼びかけに応じて佐賀中学教師に転じた。

最初の師ともいうべき田所は倉崎が赴任した年に亡くなった。

加藤逢吉は倉崎が松江中学卒業時、物理の教師を勤めており、その時から倉崎の人物を見込んでいた。

のち茨木中学の初代校長になった時、佐賀中学にいた倉崎を自分の片腕とすべく呼び寄せ、以後二人は20年余り固い師弟のきずなで結ばれ茨木中学の発展に尽くした。

加藤は明治28年の開校以来実に26年余の長きにわたって茨木中学の校長を務めた。

倉崎の調査を通じて、明治期の松江中学で学んだ人物には、いかに多くのすぐれた人材がいたかを改めて感じた。そして、それらの人物の事績を知るとは、同時に松江のことを広く深く知ることにつながった。

松江と文学の関わり合いについて興味が深まったのは、松江観光文化プロデューサーの高橋一清氏の著作などによるところが大きい。

(⇒高橋一清氏、関連記事をP 31に掲載)

昨年の2月、その高橋氏がNHKのラジオ深夜便に出演し、松江と文学についての話をされた。

それまでにも、志賀直哉、里見惇、芥川龍之介など、松江を訪れ滞在して作品を残した文学者のことは知っていたが、この番組でさらに興味が高まり、それぞれの作品を読んだ。

大正3年の夏、志賀直哉が滞在した内中原の堀端の住まいには翌年、親友井川(のちに恒藤)恭に招かれて来松した芥川龍之介も滞在したという偶然も知った。

失恋して落ち込んでいた芥川を立ち直らせようと松江に招いた井川恭も、内中原の生まれで、やはり松江中学(明治39年卒)の卒業である。

中学生のころから新聞に文章を載せ、懸賞小説の賞金で学費を得るほどの文学青年だった。一高で芥川と親友になり、その文学的才能に接して、自分は文学をあきらめ、法学関係に進んだといわれる。のち大阪市立大学の初代学長を務めた法学者である。

この井川についても関心が湧いたので、著作や評伝を読み、生家の場所や堀川で泳いだり船を漕いで遊んだりした竹馬の友である春木秀次郎(明治41年卒)の家の場所も推理したりして楽しんだ。

明治・大正時代の松江の地図を見ると、堀が埋められたり、宍道湖の埋め立て地ができたりした現在と、かなり違うことも分かり興味深かった。

昨年の近畿松江会の総会で閉会挨拶を受け持ったが、その時、私は大それた目標を公言してしまった。それは前記番組で高橋氏が語った松江の橋の多さが引き金である。

松江市の資料によると、平成29年1月末現在、松江市には1174本の橋があり、そのうちいわゆる旧市内の橋は560本あるとのことである。

私は、これから何年かかるかわからないが、この560本の橋を、車などではなく、自分の二本の足で渡ることを目指すと宣言したのである。

自分の足で橋を渡り、橋の上、また、たもとに暫し佇み、周辺の情景に目をやり、人々の過去の暮らしや橋にまつわるいろいろな事柄に思いを馳せることによって、松江を一層身近に感じることができるとは思わないかと思うのである。

母が他界したことで、帰松の機会が減ったため、まだ渡った橋は数えるほどしかなく、堀川水系の京橋川、四十間堀川、城山西堀川などにかかる29の橋を制覇しただけであり、「日暮れて途遠し」の感がある。しかし、元気なうちに何とか大目標を達成したいものだと念じている。



亀田橋

その目標を実行に移して間もない昨年10月、山陰中央新報社が毎週金曜日に「水都松江の橋巡り」の連載を始めた。

前記の同志石倉昭子さんが毎週ネットを通じて切り抜きを送ってくれるのは心強い。

おかげで記事を参考にすることができ張り合いが増えた。

私にとって、松江は「生まれ故郷」ではないが、唯一の「故郷」であることには間違いない。

まだまだ松江について知りたいことは限りなくある。

「Open Mind 考」

村尾 俊治(11)



はじめに：

異文化交流という言葉がある。

交流には種類、やり方が様々あり、例えば建築家は建物の造形から異文化様式や工法など多くの事を学ぶ。ここでは、特に異文化人とのコミュニケーションによる交流を取りあげてみたい。

先日、多民族国家と言われているオランダのアムステルダムを歩いた。その途中、運河に浮かべた小舟の上で3人の若者が雑談を楽しんでいる。久しぶりの再会の様子である。思い切って話しかけ、出身国を尋ねたところ、3人ともそれぞれ違っていた。

多民族による多様性は時に問題を起すこともあるが、優っている点の方が遥かに多いと思っている。

因みに、オランダは国連調べで最も「幸福度」の高い国とされている。日本は51位である。この「幸福度」の評価要素は、GDP、自由度、健康年齢、そして寛容度である。

どうすれば異文化の人達と上手くコミュニケーションが出来るのかを、今回のテーマとしたい。

日本の「幸福度」が51位と低いのは、主に寛容度の低さのためであり、中でも外国人の受け入れが少ないことがその要因である。「幸福度」16位のドイツと比べても、外国から受け入れた国民比率が13.1%に対して、日本は1.1%と低く、留学生の受け入れはドイツの約半分しかない。

また将来、日本の人口減少が避けられない状況では、外国の優秀な人材や労働者をいっそう受け入れざるを得ないことが想定される。寛容度を高める意味でも、外国人の受け入れがますます必要とされる所以である。

そうなれば、異文化の人達とのコミュニケーションがさらに重要となるはずだからである。

※気にかかる問題：

多くの国は国籍認定を出生地主義としているのに対し、日本では両親の少なくとも一人が日本人でなければならない。

〈1〉胸襟を開く

コミュニケーションの基本は先ずこちらから声を掛けることである。相手の思いや意見を聞き出すには、待っていても相手は心を開いてくれない。

嘘偽りのない心を開いて話しかけてこそ、相手も少しずつ心を開いてくれると思う。これが「Open Mind」の第一歩である。

私の実践体験に基づく事例を紹介する。

1980年代初期のアメリカは大変な産業不況であった。大量の失業者が町中に溢れ、ジャパンバッシングも起きていた。シカゴのガソリンスタンドも次々に倒産し、直ぐにべんべん草が生えて廃墟のようになっていた。日本のオイルショックの時でも、こんなに酷い景色は見たことがなかった。まさに、不況を肌で感じたのである。

その時期にシカゴにあるTV工場の経営改革を指示される。

赤字脱却プロジェクトとして、本社職能である生産技術本部から派遣されたのである。私の専門はIE（インダストリアル・エンジニアリング）で事業や工場の合理化を図る技術である。元々はアメリカから学んできたものである。なんと、IEの先達の本拠地へ単身乗込んで、IEを武器に経営改革することになったのである。

案の定、現地では、工場の生産技術の連中が冷ややかな目で待ち構えていた。『日本の本社から来たとは上等じゃないか、ぜひ我々の改革案と戦わせよう』と挑戦状をたたきつけられる。

彼らにとってはプライドもあり、フラストレーションも相当溜まっているので、一方的に命令する対決姿勢では不満が爆発してうまくいかないことが明白である。ここは捨て身になって、極力自分をさらけ出して、自分を知ってもらうことが大事と考え、全てを「Open Mind」でやることにした。

(1) 工場長に毎週生データを見せ意見交換

英語が不得手の中、図(マンガ)を描いたり、ジェスチャーしたり、あの手この手で努力した

(2) 現状の取り組みについての週報

幸い工場長秘書が日本人女性であったので、随分助けてもらった。

(3) 昔の私の論文(英文)2つを関係者に配布

自分を知ってもらう上で極めて有効であった。

(4) 現状調査をまとめて課題認識を共有

説明会を開き課題認識について同意出来るか問うた。全員アグリー(賛同)との回答であった。

このあたりから化学変化が起きる。改革案づくりに我々も参加したい。一緒に協力しようとなったのである。「Open Mind」の成功例である。

<2> 「Open Mind」で心がける大事なこと

『素直』という似た言葉がある。しかし『素直になれ』は、自戒として自らに使うのは良いとしても、他人に対して使うのは、「拘りや私欲を捨てて言う通りにせよ」というニュアンスで、上から目線の言い方と見られても仕方ない。フラットでかつ偏見も上下関係もない「Open Mind」のイメージとは若干異なる。

禅の高僧との出会い

我が家の法事を済ませた後、禅の高僧と雑談をした。

僧曰く、当時、松下電器産業(現、パナソニック)の社長は三段跳びで抜擢された山下俊彦であったが、優れた社長として話題にされていたので、社長の資質・条件は何ですかと本人に尋ねた。

すると、『か』『こ』『と』ですと回答された??? つまり、『か』偏らず 『こ』拘らず 『と』囚われずの心です。この心で話し、この心で聞き、この心で見ると、と。

この話を聞いて、これこそ「Open Mind」の心ではないかと深く心に刻まれた。私なりに解釈すると、
『か』偏らず フラットで偏見のない考え方
『こ』拘らず 虚心坦懐
『と』囚われず 自分以外の価値観や思想を理解し取り入れる

であろうか。「Open Mind」のより広義な人生観である。

<3> 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)の再発見

2015年の近畿松江会の総会で小泉八雲のひ孫にあたる小泉凡教授(島根県立大学短期大学部、小泉八雲記念館顧問)のお話を聞く機会に恵まれた。

その話の中で『小泉八雲は「Open Mind」でやって来られた』との言葉があったが、その内容に具体的には触れられなかった。どのような内容か、極めて興味を掻き立てられた。

怪談の本しか知らなかったのが驚きであり、小泉八雲との新しい出会いだと感じた。

早速、2015年7月に小泉八雲記念館に行ってきた。学芸員とのやり取りでは目的を果たせなかったものの、同館が2016年7月リニューアルオープンし、「Open Mind」のコーナーも作られる予定との情報を得た。

そこで、2016年7月のリニューアルオープン当日に再訪問したが、初日の混雑でゆっくりと見ることができず、結局解らず終いであった。小泉凡教授にはお会いできなかったが副館長にはお会いできたので、興味があることだけお伝えした。

2017年4月に再々訪問した。三度目の正直である。「Open Mind」の展示で目に留まった文章をあげてみる。

○オハイオ州で白人(至上主義)社会への違和感とともに、文化の多様性や混沌文化への愛着と関心を深め、異文化を受け入れる「Open Mind」が芽生えてゆく。(1875年頃)

○1877～1889年(12年間) ニューオーリンズのマルチニークというクレオール文化圏で暮らす。異文化の接触と融合がもたらすクレオール文化の創造性を評価。

自由投稿「Open Mind 考」

○1890年8月30日、松江に到着し富田旅館で旅装を解いた。

余談になるが、松江歴史博物館へ行くと、古き良き時代の松江の風景写真を特別展示していた。その中に八雲が滞在した富田旅館が大橋とともに写っている写真を見つけ興奮した。八雲のいた時代より少し新しいものであったが、その場所に今は大橋館が存在している。

(その写真を提供していた今岡商店へ写真のコピーを戴きに行ったので紹介する。)



富田旅館(左)と松江大橋・大橋川

○松江中学では、自分をSirではなくTeacherと呼ばせ、生徒目線の丁寧で分かりやすい授業と英文の添削をした。生徒との間で相互信頼関係が出来上がる。

○自分だけの価値観に囚われない愛、信頼、約束。

〈4〉『新編 日本の面影』と、妻セツの『思ひ出の記』を読んで

小泉八雲は1850年ギリシャで生まれ、アイルランドで育ち、アメリカで新聞記者をした後、出版社の通信員として横浜に来日する。すっかり、日本の魅力にとりつかれて出版社を辞め、松江中学校の英語教師として松江に来ることになる。

完全に異文化の人ではあるが、横浜から馬や籠、そして徒歩で赴任地の松江に向かう道中で、日本文化にますます傾倒し、終には日本に帰化し、永住することになる。

次の三つの事に、「Open Mind」に通じる機微とエッセンスがあると思う。

※(1)朝の目覚めの時、松江大橋を渡る人々が発する生活音に敏感に反応した。その鋭い独特の感性は音だけではなく、全ての五感の感性が高かったと思われる。全ての事象をあるがままに受け入れたからであろう。

※(2)日本人の「ほほ笑み」について掘り下げた理解。

物事の本質を掴むことがいかに大事かを教えてくれる。日本庭園の理解にもそれが表れている。日本人以上に情に深くしかも論理的に理解している。

※(3)田舎育ちの妻のセツさんに話をねだる。

全くの異文化の人であるにもかかわらず、これはすごいと感じた。しかもセツさんなりの考えと想いで自分の言葉で語るようお願いするのである。異文化の思想や価値観をありのまま、心を開いて聞きたいと考えたからであろう。

※上記三点に関連する元文章を後掲で紹介させていただきます。

おわりに：

「Open Mind」について語ってきた。自分流かもしれないが、それなりに実践してきた。そしてある程度の成果をあげて自信も持てたので、これはこれで良いと思っている。特に、誰とでも胸襟を開いて話をすることは得意な方なので、これについてはかなり出来ていると思う。

しかしながら、より広義の「Open Mind」である『か』：偏らず、『こ』：拘らず、『と』：囚われず、の心がなかなか難しい。友人からも指摘されている。人の話を『か』、『こ』、『と』の心でしっかりと聞き、話し、見ることに、これがなかなか難しく、永遠の課題だと認識している。残された人生、懸命に努力するのみである。

最後に、「Open Mind」に必要な資質は、正しくありのままを理解する論理性である。

日本人にはやや不得手な傾向もあると思うが、共に頑張りましょう。

以上

※(1)『新編 日本の面影』(ラフカディオ・ハーン、池田雅之=訳 角川ソフィア文庫) P 73 ~ 「神々の国の首都」から

松江の一日は、寝ている私の耳の下から、ゆっくりと大きく脈打つ脈拍のように、ズシンスシンと響いてくる大きな振動で始まる。柔らかく、鈍い、何かを打ちつけるような大きな響きだ。その間の規則正しさといい、包みこんだような音の深さといい、音が聞こえるというよりも、枕を通して振動が感じられるといった方がふさわしい。その響きの伝わり方は、まるで心臓の鼓動を聴いているかのようなのである。それは米を搗(つ)く重い杵の音であった。

(中略)

一定のリズムで杵が臼を打ちつけるその鈍い音は、日本の暮らしの中で、最も哀感を誘う音ではないだろうか。この音こそ、まさにこの国の鼓動そのものといってよい。

(中略)

そしていちばん後に、朝早い物売りの掛け声が始まる。「大根やい、蕪や蕪」と、大根などのほかに見慣れない野菜を売り歩く声とか、炭に火をおこすための細い薪の束を売る「もやや、もや」という、女の哀調を帯びた声などが聞こえてくるのである。

※(2)同、P 299 ~ 「日本人の微笑」から

日本人の微笑を理解するには、昔ながら、あるがままの、日本の庶民の生活に立ち入る必要がある。西洋かぶれの上流階級からは、なにも学び取ることはできない。

民族的な感情や感情表現の面で、西洋と極東とに見られる、明らかな相違の意味を探るには、つねに変化に富んだ、あるがままの庶民の生活に目をむけなくてはならない。生にも愛にも、また死に対してすらも微笑を向ける。あの穏やかで親切な、暖かい心を持った人たちとなら、ささいな日常の事柄についても、気持ちを通じ合う喜びを味わうことができる。そうした親しみと共感を持つことができたなら、日本人の微笑の秘密を理解することができるのである。

(中略)

しかしこの笑いは、自己を押し殺しても礼節を守ろうとする、ぎりぎりの表現なのである。この笑いが意

味しているのは、「あなた様におかれては、私どもに不幸な出来事が起こったとお思いになりましても、どうぞ、お気を煩わされませんようお願いいたします。失礼をも顧みず、このようなことをお伝えいたしますこと、お許してください」という内容なのである。

※(3)『思ひ出の記』小泉節子 「小泉八雲全集 別冊」、『八雲の妻小泉セツの生涯』長谷川洋二(今井書店) P 309 ~から

怪談は大層好きでありまして、『怪談の書物は私の宝です』と云っていました。私は古本屋をそれからそれへと大分探しました。

淋しそうな夜、ランプの芯を下げて怪談を致しました。ヘルンは私に物を聞くにも、その時には殊に声を低くして息を殺して恐ろしそうにして、私の話を聞いて居るのです。その聞いて居る風が又如何にも恐ろしくてならぬ様子ですから、自然と私の話にも力がこもるのです。その頃は私の家は化物屋敷のようでした。私は折々、恐ろしい夢を見てうなされ始めました。この事を話しますと『それでは当分休みましょう』と云って、休みました。気に入った話があると、その喜びは一方ではございませんでした。

私が昔話をヘルンに致します時には、いつも初めにその話の筋を大体申します。面白いとなると、その筋を書いて置きます。それから委しく話せと申します。それから幾度となく話させます。私が本を見ながら話しますと『本を見る、いけません。ただあなたの話、あなたの言葉、あなたの考えでなければ、いけません』と申します故、自分の物にしてしまっていなければなりませんから、夢にまで見るようになって参りました。

「私にとっての近畿双松会」

小泉 勝是(松高14期⇒山口高校)



いきなり「北高ですか?」、「??? (私)」、これが私と近畿双松会を結びつけたきっかけの言葉だ。声をかけてくれたのは、偶々水彩画の展覧会(2012年秋)に来場し、私が描いた松江の絵(写真1)を見た近畿双松会の会員(スカウト?)だった。



〈写真1〉大橋川(矢田の渡し付近)

すぐに、当時の松本事務局長から温かい入会のお誘いがあった。多少はかすっているが、松高に入学したものの松高の卒業生ではないことに戸惑いながらも入会することになった。

2012年の総会に初めて出席しデビューした。山口高校の校歌「榎野川(ふしのがわ)・・・」は殆ど忘れていたのに、松江北高の「山脈浮かびて・・・」はすんなり歌うことが出来た。最後の歌詞「松江北高ここにあり」は「松江高校」ではないのでちょっと違和感があったが本当に感激だった。しかし、その総会の出席者は殆ど知る人ぞ無しで出席しなければよかったと後悔した。

私は石橋町で生まれ、みどり幼稚園、北堀小、松江一中を経て1960年松高に入学するまで松江で過ごした。一学期の宍道湖一周マラソンを何とかこなして、これから勉強に打ち込もうという矢先に、父親の転勤で9月から山口高校に転校した。

父親は、山口、広島、鳥取と転勤を繰り返し1968年に松江に戻り、八幡町(竹矢)に居を構えた。

以来、私は社会人になって盆暮れには帰省するものの数日間竹矢に滞在するだけで、殆ど松江の中心部に出掛けることはなかった。すなわち生誕の地松江という“地の縁”も、一緒に遊んだり学んだ友人等との縁“人の縁”も、長い年月の間に途切れてしまっていた。

近畿双松会に入った効果で、まずは松江一中の同級生等と連絡がとれ再会することができ、“人の縁”が復活した。私が属する水彩画クラブの会員が近畿双松会の会員とつながっていることまでも判明した。

近畿双松会の各種行事に積極的に参加したり、近畿松江会に入会したりで、“人の縁”の復活に加えて、同郷(松江、出雲、島根)の先輩や後輩の皆さん等と知り合え、思いもせぬ新たな“人の縁”につながって行った。この交流の中から色々な刺激を受けて各地の社会活動に参加し、現役時代には考えもしなかった子どもたちに科学の面白さやおもちゃ作りを教える場にまで広がった。

この歳になって掛け替えのない大きな財産である。「そげかね!」、「あげだが!」などと共通の出



〈写真2〉森山醤油店(千手院入口)

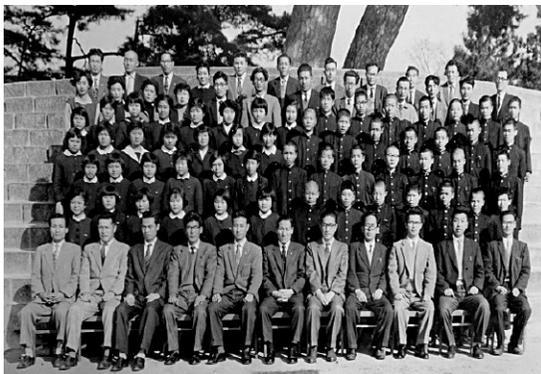
雲弁を駆使し、共通の話題で盛り上がるのは何よりも嬉しく楽しい。

松江との縁が復活すると、生誕の地石橋町がどうなっているかという思いが強くなり、機会あるごとに訪ね歩くようになった。今は南北に‘大輪町通り’や‘くにびき通り’などの幹線道路を中心として街が大きく開け、その頃の面影は殆ど無いが、石橋町の“こども稲荷神社”の裏(東側)は、遠く嵩山の麓まで見渡せる広大な畑と田んぼが広がっていた。東には田んぼや川、西には城山、北には千手院の山、など沢山の自然に囲まれていた。

50数年振りに訪れた懐かしい石橋町三丁目(地行場)の通りは、変化のない静かなたたずまいであったが、第一印象は“こんな狭い通りだったのか!”であった。この狭い通りで仲間たちと、「かくれんぼ」、「缶蹴り」、「元帥取り」、「天国入れ(ピー玉)」、「コマ回し」、・・・などで遊び毎日走り回り歓声を上げていた。当時の神社の境内は大きな木で覆われ薄暗く、中に潜り込んで遊んだ“社殿(やしろ)”はとても大きく感じていたが、現在の境内は木々も少なく拍子抜けするほどに明るく、社殿も随分小さく見えた。

その後、3か月間通った西川津の松高についても訪ね歩いたが、街並みが大きく変貌し、結局分らずに終わった。今も分からない。

松江との“縁”が復活して以降、松江観光大使を引き受けた手前もあり、いや郷土愛から、会う人ごとに松江のPRをするようになった。名刺を渡すのは勿論だがPR用パネル(エンドレスパネル)をこしらえて、見どころのエッセンスを伝えるようにしている。



〈写真4〉二本松をバックに卒業写真

更に、近畿双松会入会のきっかけとなった、毎年秋の展覧会には、必ず松江の風景画を出品し、来場のお客様に松江のPRをしている〈写真3〉。



〈写真3〉松江城(国宝指定記念)

29年度の総会で金平憲・双松会幹事長から若返った二本松が枯れたとの報告がなされた。勉強不足であったが、私は近畿双松会に出会ったとき、「双松」がピンとこなかった。後に松江一中のシンボル「赤山の二本松」と同じものを指していると分かり、改めて旧制松江中学に遡るルーツを学び直した。私の松江一中の卒業写真には、たくましい黒松の巨木が台座の上に雄々しく映っており、正しくシンボルであった。最近台座の上に若返った二本松がちょこんと植わっている写真を見たが、これが枯れてしまったということで何とも言えない「喪失感」を覚えた。松江北高のかけがえのないシンボルとして何としても復活させ、大きく育ててほしいと願っている。



〈写真5〉元気な時の二本松

編 集 後 記

「不思議なエネルギーを感じました」「このようなものはなかなか作ることは出来ません」——。伝説的名編集者からこのような言葉を頂きました(31頁)。

「編集者として鼻高々」と書きたいのですが、本会報から放出されるエネルギーはこれすべて松本耕司会長のエディタースhipの賜物です。

とりわけ今年は2月下旬に出張(イスラエル、ドイツ)が入り、時差ボケも含め前後長い不在が続きました。が、仕上がりはもちろん、「実に楽しい雰囲気」が誌面いっぱい。

この勢いで「60周年」の年を過ごして行きたいと思います。どうぞよろしく願います=写真はエルサレム「嘆きの壁」。テルアビブから車を飛ばして1時間。気が付けば旧市街を11^{キロ}徘徊していました。

(渡辺 悟=20期 副会長)



近畿双松会報 2017(平成29)年度版 通巻59号

発効日/平成30年3月31日
編集兼発行者/近畿双松会
発行所/近畿双松会事務局
所在地/〒550-0002
大阪市西区江戸堀1-21-35
株トーヨーコーポレーション内
TEL 06-6443-2062
FAX 06-6443-9736
郵便振替口座/00910-0-103665
近畿双松会